

住まいの塗り替えは わたしたちにおまかせください!



「関西ペイント」の最良の塗料と「リフォームサミット店」の確かな塗装技術で、
最適な塗り替えをご提案します。

リフォームサミット店へ
お気軽にご相談ください



詳しい情報はここから!



リフォームサミット
Webサイト



リフォームサミット
紹介動画



お近くの
リフォームサミット店が
検索できます

TO: International Students at UOsaka

We are looking for the lecturers who are from the following countries and regions;

- ✓ India, Nepal, Sri Lanka ✓ Central Asian Countries
- ✓ Middle-East Countries ✓ African Countries

◆ You may casually talk on your "languages, histories, customs, etc." in English or Japanese.

◆ No cost for you. The lecture fee we pay is negotiable.

IVS International Visitors Station

Room 2C, Motomachi 1-2-17, Naniwa-Ku, Osaka City.
Tel : 06-6684-9965 (Japanese) / 06-6684-9964 (English)
Mail : uosakastudent@braix.jp



Equipment and facilities are available for your lectures;

- ◆ FREE WI-FI ◆ ZOOM ◆ 70" WIDESCREEN
- ◆ OH PROJECTOR ◆ CONFERENCE ROOM



リニア外国語スクール

<http://www.linear-ashiya.com/>

芦屋市で創業以来 36周年となります。爾来 30カ国語以上の会話レッスン。

講師はネイティブスピーカー。英語 英語 フランス 語 ドイツ 語 チェコ 語
イタリア 語 ポルトガル 語 スペイン 語 ロシア 語 スウェーデン 語
デンマーク 語 アラビア 語 セルビア 語 アルメニア 語 ペルシャ 語
タイ 語 モンゴル 語 中国 語 韓国 語 など 18カ国語。
オンラインレッスン、国際交流パーティーなども開催しています。

兵庫県芦屋市大原町12-1 プティビル2F tel:0797-23-4909 linear@vesta.ocn.ne.jp

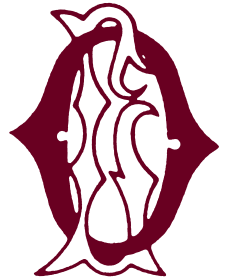
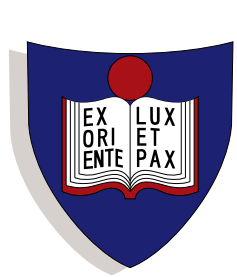


会報「咲耶」 37
2026 No.



写真撮影：外国語学部

咲耶会 (大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)



〔表紙のことば〕
昨年（2022）年のハンガリー編につづき、7月11日（土）、第4回「さまざまな視点で世界を見る モンゴル編」が開催されました。今年は、本学モンゴル語学科出身の作家、司馬遼太郎の没後30年の年にあたり、司馬さんが愛したモンゴルの文化と衣食住がたっぷり味わえるイベントということで、箕面キャンパスの会場は大いに盛り上がりました。講演会では、卒業生で、モンゴル文学・思想史の研究者である芝山豊氏が、「司馬さんとモンゴル～モンゴル語専攻の後輩たちへ～」の演題で、司馬さんとの運命的な出会いを感動的に語られました。講演の後には、馬頭琴、喉歌（ホーミー）の演奏。哀愁を帯びた美しい音色は、モンゴルの悠久の歴史と広大な草原へと聴衆の想像力を駆り立てました。

「遊牧文化祭」では、モンゴルの衣食住・遊びと音楽を実体験。異国情緒豊かな民族舞踊は圧巻でした。詳しくは、Campus News「モンゴル語専攻の今」をご覧ください。

2-3	ご挨拶 咲耶会会長 大内 一 大阪大学理事・副学長 宮本陽一 外国語学部長 菊池正和 令和8年度 総会・懇親会のご案内
4	懐かしの恩師は今 南田みどり／松田 武
5-6	令和7年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会
7-8	〔特集〕司馬遼太郎没後30年 上村洋行／荻原靖史／小川真由／西畑宏紀
9	菜の花 芝山 豊
10	～活躍する卒業生～ 中島裕司
11-12	〔特集〕留学体験記 長谷川翔哉／野澤瑞佳
13-14	私のキャリアレポート 田坂雅弘／永野ひかる
15-18	CAMPUS NEWS
19-20	部活動の広場
21-24	咲耶会ニュース 令和7年度 決算報告／令和8年度 予算案
25-30	つどい・支部だより
31-33	短信
33	追悼文 物故者
34-36	年会費支払者・賛助金寄付者一覧
37	咲耶会（同窓会）本部・支部一覧表
38	令和8年度 咲耶会役員名簿 個人情報取扱について 編集後記

学 士 会 をご存じですか？

学士会は旧七帝大（北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大）の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 1 『學士會会報』が届きます。
- 2 講演会・イベントへ参加できます。
- 3 「提携サービス」優待があります。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。
<https://www.gakushikai.or.jp/>

学士会案内が届く準会員（無料登録）制度もございます。

一般社団法人 学士会

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-2-2
住友商事竹橋ビル2階
03-6665-6983 / member@gakushikai.or.jp

※「学士会館」は再開発のため、現在閉館中です。再開は2030年頃を予定しています。



ご挨拶



咲耶会会長

大内 一

会報『咲耶』は、卒業年次や専攻言語、居住地の遠近を問わず、会員の皆様に母校の現況をお伝えするだけでなく、互いの近況を伝え合う場と懐かしい学生時代を思い出す契機を提供させて頂けていれば幸いです。今後も可能な限り今の紙媒体の質と量を維持したいと思っております。

この一年のあいだ、皆様のおかげをもちまして、大和大学社会学部社会学科教授・元産経新聞社モスクワ支局長の佐々木正明氏（ロシア語学科1996年卒業）による講演会「戦後80年、キーウに鳴り響く空襲警報～ウクライナ取材報告 現地では何が起きているか～」 (@咲耶会総会) と元産経新聞編集局次長の石野伸子氏（ドイツ語学科1974年卒業）による講演会「外語出身の2人の作家 司馬遼太郎と庄野潤三」 (@咲耶茶論) を主催し、宗教学者の釈徹宗氏による講演「信じることと生きること—司馬遼太郎 思索の軌跡」 (@司馬遼太郎記念学術講演会) を共催するなど、講演行事を大過なく終えることが出来ました。また、大阪大学夏まつりにおいて、元外交官の中村一博氏（イスパニア語学科中退）のご厚意によるご著書『地球を平和にする方法 みんな地球人になあれ』のサイン会を開けたことや青野繁治監修『広がることば 現代

咲耶会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今回、こうして会報『咲耶』の最新号を皆様にお届けできることは、ひとえに平素より皆様から頂戴している咲耶会へのご理解とご協力の賜物でございます。ここにあらためて深く感謝申し上げます。

会報『咲耶』は、卒業年次や専攻言語、居住地の遠近を問わず、会員の皆様に母校の現況をお伝えするだけでなく、互いの近況を伝え合う場と懐かしい学生時代を思い出す契機を提供させて頂けていれば幸いです。今後も可能な限り今の紙媒体の質と量を維持したいと思っております。

グローバル化した社会におけるイノベーション創出に向けて



大阪大学理事・副学長

宮本陽一

この度は、このような寄稿の機会をいただき、大変光栄です。
私は言語文化研究科時代から旧箕面キャンパスにおいて「言語学概論」の講義を担当させていただきました。初めて担当した年の学生のひとりが大学院において私の指導学生となり、博士後期課程で米国留学を果たし、私が留学した大学院の後輩として Ph.D. を取得したことは教員として嬉しい限りです。海外に住んでいながら、帰国するたびに連絡をくれる学生もいます。今年度で研究科を離れますが、箕面キャンパスにおいて数々の忘れられない思い出に恵まれました。
また、講義のみならず、言語文化研究科ならびに人文科学研究科の執行部メンバーとして多くの先生方と接する機会を得ました。

これからは、このような寄稿の機会をいただき、大変光栄です。
私は言語文化研究科時代から旧箕面キャンパスにおいて「言語学概論」の講義を担当させていただきました。初めて担当した年の学生のひとりが大学院において私の指導学生となり、博士後期課程で米国留学を果たし、私が留学した大学院の後輩として Ph.D. を取得したことは教員として嬉しい限りです。海外に住んでいながら、帰国するたびに連絡をくれる学生もいます。今年度で研究科を離れますが、箕面キャンパスにおいて数々の忘れられない思い出に恵まれました。
また、講義のみならず、言語文化研究科ならびに人文科学研究科の執行部メンバーとして多くの先生方と接する機会を得ました。

華語文学アンソロジー』（朋友書店）が咲耶出版大賞に選ばれたことを皆様にお伝えできることは喜ばしいかぎりです。

今年度の総会での講演者として、高橋和夫氏（放送大学名誉教授・ベルシア語学科1974年卒業）を予定しております。演題は「イランとアメリカ、そしてイスラエル」、まさに時宜を得たお話を拝聴できると今から楽しみにしております。また、令和8年度司馬遼太郎記念学術講演会（12月10日（木））では、心筋細胞シートで有名な医学者の澤芳樹氏（大阪大学名誉教授）と社会人類学者の松原正毅氏（国立民族博物館名誉教授）を講師にお迎えする予定です。どのようなお話が聞けるのか興味津々です。皆様の積極的なご参加を願っております。

最後に、楽しくない話で恐縮ですが、近年の会報でも毎回お伝えしているように、厳しい財務状況が続いております。今年は初めて赤字予算を組むことになったことはご存じかと思います。その根本的な原因は、外国語学部新入生580名の入会率の低さにあることは明白です。入会率が上がらない大きな理由は、25,000円という高額な入会金ハードルになっていると推測されます。ここ数年間、幹事会等で会費および入会金に関する意見交換がなされてきましたが、中長期的に持続可能な財政基盤の確立の必要性を考慮しますと、そろそろ一定の結論を出す時期かと考えます。また、さらに現在のような財政逼迫が続きますと、いわゆるDX化（デジタルフォーメーション）の導入をとおして支出を減じていく方向も視野に入れなければならないでしょう。そうならないためにも、プライマリーバランスを何としても好転させなければなりません。厳しい財政状況下ではありますが、会員の親睦と学生支援という咲耶会の業務を継続的かつ円滑に行えますよう、あらためまして皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



外国語学部長

菊池正和

咲耶会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この4月より、大阪大学外国語学部長に就任いたしました、菊池正和と申します。略儀ではございますが、この会報誌『咲耶』を通じてご挨拶申し上げます。

私は大阪外国語大学の出身ではありません。しかし、「大阪に国際人を育てる学校を」という志から始まり、1世紀を超えて世界の言語と文化に向き合う人材を育ててきたその歴史と伝統に、深い敬意を抱いております。そして、大阪大学外国語学部となった後も、語劇祭をはじめとする学生の活動や、教育・研究の充実が変わることなく支えてくださっている咲耶会の皆様に、心より感謝申し上げます。世代や専攻語、国境を越えて同窓生を結び、学生と卒業生、学部と社会をつなぐ咲耶会の存在は、本学部にとってかけがえのない財産です。

現在、世界は地政学的な緊張や社会の分断、移民・多文化共生をめぐる課題、さらに機械翻訳や生成AIによる情報環境の急速な変化に直面しています。このような時代だからこそ、外国語を単なる情報伝達の手段としてではなく、その背後にある文化、社会、歴史とともに学ぶことの意義は、ますます大きくなっています。異なる価値観を持つ人々の声に耳を傾け、安易な単純化を避けながら、対話の回路をひらくことのできる人材を育てること。それこそが、今日の外国語学部求められる使命であると考えています。学生一人ひとりが言語を通して世界を深く知り、自らの視野と可能性を広げていけるよう、教職員一同、教育環境の充実に努めてまいります。

この使命を果たすためには、教職員の努力だけでは十分ではありません。国内外の多様な分野で培われた会員の皆様の経験と知見、そして学生への温かな励ましは、若い世代が世界へ踏み出す大きな力となります。大阪外国語大学から受け継いだ精神を次代へつなぎ、外国語学部の新たな歴史とともに築いていくため、今後とも咲耶会の皆様の変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

懐かしの恩師は今

おまけ人生てんこもり

南田みどり

(大B18 / 院B6 大阪大学名誉教授)

2013年4月の定年から13年。おまけ人生はてんこもりです。研究者としては、科研費の交付を受け、箕面キャンパスの研究室を拝借しています。『二十一世紀ミャンマー作品集』(大同生命国際文化基金2015)『ビルマ1946 独立前夜の物語』(段々社2016)『ビルマ文学の風景—軍事政権下をゆく』(本の泉社2021)などのほか、ビルマ語雑誌掲載評論をまとめて『国境なき孤独』(2018)もヤンゴンで出版しました。2022年5月から本の泉社ホームページに南田みどりのミャンマー便り」を毎月連載中です。2016年4月から23年3月まで、外国語学部非常勤講師としてビルマ文学講義も担当していました。

表現者としては、1997年から始めたソングとトークのライブを年2回、6月と12月に行い、レパートリーは220曲を超えました。在籍40年余のコーラスでソプラノ



も歌っています。2012年から南京玉すだれを習い、パレードなどに出ていましたが、今年に入って2回招かれ、皿回しなども加えて、ピンで披露を始めました。

これらを支えるのが生活者のわたしです。食生活では、電子レンジを処分し、調理済み食品や半調理食品を買わずゼロから作り、化粧水も手作りです。早朝はパソコン仕事の後、1時間近く氣功で心身を整えます。一日中机に向かった夕方は、ジムに出かけます。体脂肪率が減り、筋肉量と骨量が増えました。クスリやサプリとも無縁の日々です。

ビルマ訪問は20年3月の45回目が最後です。21年2月に「国軍」という名の利権的暴力集団が「クーデター」の名にも値せぬ違法な政権篡奪をしました。軍事独裁の崩壊と民主的連邦国家の誕生後に再訪するつもりです。ビルマ不服従市民に寄り添う毎日が続きます。

昨今の私

私は1975年に大阪外大で教鞭をとり始め、2007年の大阪大学との統合を経て2010年に阪大を退職しました。その後2022年まで京都外国語大学で学長を務め2023年に退職しました。

私は大阪外大で英語を学び、学部生の時に留学の機会に恵まれて米国の大学でアメリカ史を専攻しました。それが後に自分の人生の生業となりました。大阪外大ではアメリカ史と英語の授業を担当しました。英語を駆使して社会を少しでも良い方向に変えていく一助になりたいと常に思っておりましたので、私は学生の皆さんにもそのように育っていただきたいとの信念で教壇に立っていたように思います。

阪大との統合を機に、学生の皆さんは実践的語学力を身につけ、加えて他の専門分野も学内で学ぶ機会に恵まれた教育機関に身を置かれるようになっていきます。統合後の卒業生が社会人となり、社会を良い方向に導いてくださるのを拝見しますのが私の大きな喜びになっています。



松田 武

(大E18 大阪大学名誉教授)

学生時代に、今は亡き外大の恩師から、学業や仕事に並行して人間として個人を創り上げる大切さも教えて頂きました。それは

(一) 依存心を持たない (二) 過度な所有欲を持たない (三) 自分の行為に対する見返りを求めない (四) 人と和していくことをまず心がけること。それらを胸に黙々と自分の道を歩むように…でした。外大で学んだ実践的語学力と恩師の言葉を現在も常に心して日々を過ごしております。

「所詮、民主主義は生き物である」と言われます。民主主義が生き物である以上、常にそれに糧を与えて元氣

づける必要があります。それと同様に、「人間も頭と身体に良い糧を与えて元氣に成長し続けなければ…」と思う昨今です。若き日の情熱を忘れずに執筆に精を出し、細やかな菜園の実りを喜び、縁のある方々と笑顔を交わし合う日々を一日でも長く重ねていきたいと思っています。



松田先生ご自宅の庭園

令和8年度 総会・懇親会のご案内

日時：令和8年11月7日(土) 午後1時30分～午後6時
会場：大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟1F
大阪外国語大学記念ホール・大講義室
大阪府箕面市船場東3-5-10
TEL 072-728-2327 (咲耶会事務局直通)

■ 箕面キャンパスへのアクセス
・北大阪急行線「箕面船場阪大前駅」下車 徒歩 約3分
・阪急バス「阪急石橋北口」発「千里中央行」、
「箕面船場阪大前駅」下車 徒歩 約5分
・阪急バス「阪急豊中駅」発「千里中央行」、
「新船場南橋」下車 徒歩 約7分

<第Ⅰ部>

- 咲耶会総会：午後1時30分～午後2時30分
- 「咲耶出版大賞」表彰式：午後2時30分～午後3時
- 講演会：午後3時～午後4時



講師：高橋和夫氏

(大P22 / ペルシア語学科1974年卒業)

国際政治学者(専門：国際政治学、中東研究)
放送大学名誉教授、先端技術安全保障研究所(GIEST)会長
演題：「イランとアメリカ、そしてイスラエル」

- 休憩 午後4時～午後4時20分

<第Ⅱ部>

- 懇親会：午後4時20分～午後6時
懇親会会費：5,000円(当日会場でいただきます)
- ※ 新卒業生会員(令和8年3月/令和8年9月卒業)
・学生会員は無料です。未入会の学生については、
会費として、1,000円をいただきます。
- ※ 卒業後50年の会員には、記念品をプレゼントします。
多数のご出席をお待ちしています。
- 参加ご希望の方は、同封のハガキにてお申し込みください。

<お問い合わせ>

咲耶会事務局 TEL & FAX：072-728-2327
E-mail：sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

主催：大阪大学／協力：産経新聞社
後援：司馬遼太郎記念財団
協賛：咲耶会（大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会）

テーマ：
「信じることと生きること—司馬遼太郎 思索の軌跡—」
ビブリオバトル × 司馬遼太郎作品
講演「司馬遼太郎の宗教的感性」宗教学者 釈 徹宗
総合司会：小川真由（アナウンサー、大阪外国語大学国際文化学科日本語専攻卒業）

大阪大学外国語学部の前身である大阪外国語大学出身の作家、司馬遼太郎先生の功績を顕彰する「司馬遼太郎記念学術講演会」が2026年1月12日、大阪大学会館講堂で開催された。この講演会は大阪大学の主催のもと、大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会である咲耶会の支援を受けて開かれている。会場は二階席も埋まってほぼ満席となる400名近くの参加者があった。

まず本学の日本語専攻でビルマ語を学んだ元NHKアナウンサーの小川真由さんによる司馬先生の紹介があり、その後、『以下、無用のことながら』から黒田官兵衛をめぐる文章の朗読があった。

続いて、熊ノ郷淳総長より挨拶があった。少年時代から司馬作品の愛読者であったと話し、司馬作品に見る「皮膚感覚」の面白さと、描かれた日本人像の魅力が紹介された。



大阪大学総長 熊ノ郷 淳

ビブリオバトルでは最初に人間科学部2年生の吉田ももさんが司馬先生の『峠』を推薦し、主人公、河井継之助がどういう生き方をすべきだったかという作家の判断は下さず、読者に考えさせる手法であると解説。正しいと思うことを物怖じせず語る主人公は、一見強そうに見せるが実は明確な判断を下した後の覚悟が必要だったと、その重要さが伝わる作品だといい、読みながら自分の未熟さと向きなおる機会を受けたとの印象を述べた。

次に外国語学部2年生の高橋由菜さんは短編『伊達の黒船』を掲げた。困窮状態にあった主人公は手先の器用さで提灯を作っていたが、その器用さによって長崎で蒸気船を5年がかりで造るまでの経緯が描かれていると説明。人物像の描き方が「自分は報われない」という気持ちに救いを感じさせるもので、目下に対しても教えを乞う主人公の清新さが魅力だったと述べた。

外国語学部4年生の井端モモさんは『草原の記』を紹介した。司馬先生のユーモアに溢れるくだりや、モンゴルの草原を走る馬の話、モンゴル人女性が4度も国籍を変えなければならなかった事情や、最後に幸運に恵まれるという話を紹介しながら、人物の描き方のユニークさを強調した。4人目は外国語学部3年生の五十嵐太郎さん。『街道をゆく3 陸奥のみち、肥薩のみちほか』の「河内みち」について、読後に実際に歩いてみると、描かれているように、その土地や人の歴史、文化がより深く感じられる作品であると語った。

各評者のあとで質疑応答があり、紹介した作品の内容のみならず、他の作品に関する質問にも及び、司馬先生が対象とした時代や地域の広がりについて活発な意見交換があった。

休憩をはさんでからの講演では、宗教学者で自身も僧侶であり、相愛学園学園長、武蔵野大学総長を務めておられる釈徹宗先生の講演「司馬遼太郎の宗教的感性」が行われた。



釈 徹宗氏

この中で釈先生は、日本の家庭では宗教を話題にすることは少ない傾向にあるようだが、司馬作品には宗教の思想や本質に切り込んだ文章が存在することを紹介した。自身が特定の宗教を信奉することはなかったようだが、理性に基づいた、宗教的感性に関する膨大な著作を残した点に言及。そして釈先生は、大阪では蓮如がもたらした「講」によりヨコのつながりが強い点を指摘し、そんな大阪人を「信心深い合理主義者」と評した。

司馬先生の宗教的感性についての知的営為は宗教に肉薄するものだったが、司馬先生自身は世俗に足を置いて客観的に宗教を論じ、親鸞を「日本の思想上最大の人物」と評した。宗教的聖者ではない凡夫や愚者がどう救われるかという道筋を示したのが親鸞だったという。親鸞とその弟子の対話をもとに記された『歎異抄』の内容を、司馬先生は作品の中で登場人物の言葉を通して引用している。

一方で司馬先生は『空海の風景』で、空海が天賦の文筆の才能を持ち、物事を比較して論理を組み立てる人物だったことを描いたが、その背景には空海のスケールの大きさと温かさへの敬意があったのではないかと論じた。密教の扉を開いた空海に対し、個別の問題を一つ一つ説明しようとした姿を描こうとしたのではないだろうか、という印象を述べた。

また司馬先生は、大阪の町の特質として、蓮如の時代につくられた寺内町の門徒気質が横並び意識の強い大阪商人の価値観、商業倫理、勤勉さの根底にあり、それは土地の独特な風土が生み出したものだと思っていたことにもふれた。

司馬先生は日本の仏教の独自性を客観的に論じながら、仏教以外の宗教が日本にもたらされても対立ではなく、うまくすり合わせながら宗教心を維持できたことについて言及していたという。そんな宗教的感性が司馬作品には感じられるとまとめた。

講演に続いて、釈先生を囲んで、産経新聞社元編集委員の荻原靖史氏および本学教員の宮下遼准教授の3名による鼎談が行われた。荻原氏は、司馬先生が人知の及ばないことにはふれないが、多くの作品を通して宗教的感性が感じられる点を指摘した。

宮下氏は研究対象地域のトルコを例に挙げ、イスラームの信者らが来世に期待して現世で宗教的な生活を送っていると



令和7年度

大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会

解説した。そして仏教での仏陀や親鸞のような人物が現れたことがなかった点を示し、イスラーム学者（ウラマー）は信者（ムスリム）を救うというより、むしろムスリム社会において神の法を適用すべき役割を果たしていたことに言及。またイスタンブールをはじめトルコでは飲酒に寛容で、教えを合理的に変更するなどの「信心深い合理主義」が見られたことも指摘した。これに対し釈先生は、信仰心を尊重しながらも、他者との関係性において信仰心を超えたすり合わせが可能であると述べた。

話題は昨今の世界情勢に及び、釈先生は、宗教的右派が世界各地で台頭しつつあり、反知性主義が積極的に政治に関与する流れを生んでいるのではないかと危うさを指摘した。議論の中で現れた原理主義について、宮下氏はトルコの事例を挙げながら、滅亡したオスマン帝国に対する郷愁が政治的に利用されているのが現代であると解説した。



好きな司馬作品として釈先生は『竜馬が行く』『燃えよ剣』『街道をゆく』を、宮下先生は『国盗り物語』『梟の城』『ペルシアの幻術師』を挙げ、話は江戸中期大坂の町人学者で懷徳堂の合理主義の流れをくむ富永仲基についての話題となった。この時代に多くの大阪人が自由な学問所を設け、そこで富永も育ったが、仏典が数世紀にもわたって成立していった経緯を指摘し、一切の宗教的権威を顧みずに仏教の成立や諸宗教の比較、地域の文化を論じた稀有な人物であった。司馬先生はこの人物に大変興味を持っていたが、司馬先生はこうした人物を生んだ大阪の風土を評価していたのだらうということであった。荻原氏と釈氏は、富永仲基や山片蟠桃のように、司馬先生もまた、こうした浄土真宗的な、権威や因習にとらわれない自由な合理主義者であったのではないかと話し合った。

話題は宗教的絶対性についての話に及んだ。司馬先生は、西洋人が唱える「絶対」が日本人には理解しにくいのではないかと語っている。これについて釈氏は、キリスト教やイスラームは神という絶対的存在の下で生きているが仏教の場合は他者との関係性において成立する要素があるため、絶対的存在の理解は難しいだろうとの話であった。

最後に荻原氏からAIとの共存についての話題が出た。釈氏は、多くの説教や相談にAIがこたえることはできるが、AIには死の苦しみがなく、人間が持つ苦しみを説くのが仏教である以上、その必要性は失われないと語った。



対談後、ビブリオバトルの投票結果が紹介され、チャンプ本は五十嵐太郎さんの『街道をゆく3』、準チャンプ本は吉田ももさんの『峠』と決まり、総長からの講評があった。締めくくりとして咲耶会の井上泰子副会長から謝辞が述べられ、盛会の中、会を終えた。

（文責：山根 聡）（写真提供：大阪大学共創推進部社会連携課）

「令和8年度司馬遼太郎記念学術講演会」のお知らせ

令和8年12月10日（木）13：00～16：00、大阪大学豊中キャンパス大学会館において、事前申込制による対面方式で開催いたします。本年度のテーマは「没後30年、司馬遼太郎の日本観—私たちは何を受け取ったのか」。当日は、医師・医学者で大阪大学名誉教授の澤芳樹先生、社会人類学者で国立民族学博物館名誉教授の松原正毅先生をお招きして、ご講演いただくほか、司馬作品の朗読や対談を予定しています。

※詳細は、後日、大阪大学および咲耶会のホームページでお知らせいたします。

司馬作品の朗読は、毎回私自身が一番楽しみにしている。冒頭8分ほどをいただくため、相当プレッシャーではあるが、それ以上に心躍る仕事だ。今年のテーマと朗読箇所が判明した瞬間から、作品研究を開始し、毎晩練習を重ねる。東大阪の記念館にも何度も足を運んだ。これまで『竜馬がゆく』『街道をゆく』等の脂がのった代表作はもちろん、隠れた名作やエッセイも登場するのが本会の醍醐味だ。2018年の『大阪城公園駅（昭和58年執筆）』。駅の陶板レリーフにも描かれている作品の一節。「悲しみはこの街に似合わない」の一文に司馬さんの大阪への想いが凝縮されており、試行錯誤した。2022年の『二十一世紀に生きる君たちへ（平成元年執筆）』。何度読んでも感極まる。晩年の司馬さんが次世代へ伝えたかった世界平和と人間が生きていくために必要な“訓練”について。私自身、人生に迷うとこの作品を読み返す。

各時代の司馬遼太郎を声で表現する面白さと苦悩。アナウンサー人生でこのような名誉ある役割をいただけたご縁に感謝し、これからも司馬作品の魅力を伝えていきたい。

さて、ビブリオバトルで紹介した『空海の風景』は、空海を人類普遍の天才と捉えて、その天才の成立について考えることをコンセプトとした小説である。人類普遍の天才の成立にあたって、国際都市である長安が大きな役割を果たしたことが本書では強調されている。

以下は余談なのだが、ビブリオバトルに参加した頃ちょうど、現在の妻（当時、日本語専攻の同級生）が中国留学を控えており、私は本書を彼女に紹介しつつ「現代の学生が中国留学からこれほどのものを持ち帰れるのだろうか？」と煽りを入れたりしていた。熱心な司馬遼太郎の読者でもあった彼女は、外国語学部の友人らとのLINEのグループ名を「よつうみーぬ」（司馬遼太郎「四海への知的興奮」に因んでいるらしい）と名付けるほどの傑物であり、本書を受けて中国留学への期待を却って募らせていたようである。そういえば、ビブリオバトルの副賞は20万円ほどの旅行券—ただし、『街道をゆく』を辿る旅費として使うことという限定付き—で、司馬遼太郎氏が『中国・江南のみち』を記してくれていたこともあって、彼女の留学先に複数回訪れることができたのは僥倖であった。

丸13年。『司馬遼太郎記念学術講演会』の総合司会・朗読を担当するようになってからの年月である。母校の卒業生との認識はあったが、ここまで深い関係になるとは在学時代は想像もなかった。会は毎回大盛況で、司馬ファン層の幅広さに



フリーアナウンサー
おがわ まゆ
小川真由
（日本語大56）

声で表現する司馬遼太郎の魅力

驚くばかり。コロナ禍で2020年はリモート配信のみだったが、個人的に忘れがたいのは、この年の開催数日後に、予定日より1か月早く長男が生まれたことだ。子が年一度の大仕事を待ってくれたのは、母親想い？なのか…必ず司馬読者に育てようと決意した出来事である。

本会は、司馬さんにゆかりあるゲスト作家・著名人の講演と対談、本学学生参加コンテンツ（司馬作品からインスパイアされた動画制作やビブリオバトル）、そして、その年のテーマにちなんだ作品朗読で構成されている。



にしはた ひろき
西畑 宏紀
（阪大J8）

平成29年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 ビブリオバトルの思い出

学部3回生の頃、司馬遼太郎記念学術講演会のビブリオバトルに参加し、小説『空海の風景』を紹介したところ、チャンプ本に選出いただいた。

司馬遼太郎作品には学生時代、様々な場面でお世話になっており、特に、中央アジアから中国

文明を見る・漢民族の視点から北方の民族を見るといった氏の随筆にしばしば見られるものの見方は、モンゴル語の授業を週5コマ受けたり、国立民族学博物館に通ったりすることに多くの時間を費やしていた学部の最初の頃の私にとって、重要な補助線になっていた。様々な視座をとってみることで想像を膨らませてみるという楽しみを私に最初に教えてくれたのが司馬遼太郎作品だったと言える。

エンターテインメント」と言い、挿絵を担当された安野光雅画伯は「毎日話が違った。まるで千夜一夜物語のような」と話しておられた。

ガラス戸越しに書斎の机を眺めて振り返ると、庭の濃い緑が強い日差しを浴びて輝いている。欧米系らしい外国からの男女二人連れが記念館の建物に向かわれた。一昨年あたりからインパウンドの影響からか、欧米系の来館者が増えてきた。外国からの皆さんの記念館に対する見方にも変化が表れている。

外国からのお客様は開館以来、安藤忠雄さんの建築を見たいから、というのが来館の理由だった。今も変わらないが、記念館に置いている来館者用の3冊のノートの手書き込みから司馬遼太郎や司馬作品にも関心を寄せておられることがわかった。スマホの翻訳アプリが使えるようになって外国の言語をある程度訳せるようになったからだ。

記念館のノートには「日本の有名作家の何かが感じられる」「思索するのに最適な場所」「翻訳を読みたい」などと書いておられる。司馬遼太郎という作家を認識してくださったことにうれしくなった。

京都の宗教クラブ担当から文化部へ、司馬さんの後を追うようにその最晩年になんとか間に合った。最初で最後だがお目にかかった場所が大阪外大の跡地にある大阪国際交流センターでの講演会だ。テーマは空海と最澄。恥ずかしながらどんなお話だったか、覚えていない。

まあ頼りない後輩ではあるが岡田先生たちと議論を重ね、司馬作品を読み返すたび面白さに目的を忘れながらも本業ではない気楽さもあり、講演者と未明まで飲み明かしたり、結構楽しんでもいた。改めて感じたのは司馬さんの求心力だ。我々にとってはまばゆい後光で、畏れながらしっかり利用させていただいた。

講演会の名称には学術とあるが堅苦しいものではなく楽しい文化談義である。「文化」は座談の名手、司馬さんが大切にした言葉でもある。世界の言語を学ぶ学舎で各地の歴史が紡いできた文化の重みを体感されたのか。司馬さんは「人間は文化としての存在なのです」と語っていた。

講演会も2026年1月の開催で28回。幻の0回というもあるらしいが、さていつまで続くのだろう。

「来年はどうしましょう」が今年も頭から離れない。

司馬遼太郎記念館の庭から



司馬遼太郎記念館館長
うえむら ようこう
上村洋行

小さな森のようになった司馬遼太郎記念館の庭の小径から書斎を見る。「没後30年、記念館が開館して25年目に入ったな」と頭に浮かべつつ司馬遼太郎を思った。

書斎から出て私どもの居間に顔を見せたとき、陰しさを不愉快さを表情に出したことがない。いつも笑顔で、自分のことより私たちの様子を聞く。私が言うのもなんだが、司馬遼太郎は、自己顕示欲が少なく、透明感があるというか、晩年はとくにそうだった。人の話をよく聞く、聞き上手でもあった。編集者の方々から座談の名手などと言われたのは、そのあたりにありそうだ。

『街道をゆく』など取材旅行のさい、版元である朝日新聞出版の方だけでなく、作家、学者といった知人や他社のマスコミ関係者らが同行される。夜、宿舎で食事の後、司馬遼太郎を囲んで団らんができ、やがて、司馬遼太郎の話を聞くかたちに。編集者の方は「知的



元産経新聞編集委員
おぎはら やすし
荻原靖史

「来年はどうしましょう」

「さて来年はどうしましょう」。岡田新先生（大阪大学名誉教授）からの連絡はたいてい司馬遼太郎記念学術講演会を終えた次の週には入ってきた。余韻に浸りたいところだが先生はせっかちだ。テーマや講師選定、交渉などの企画やPRの展開から予算や会場の確保、新聞紙面の製作まで裏方に徹した二人三脚がまた始まる。

意識したのは司馬遼太郎記念財団による恒例の「菜の花忌シンポジウム」で、複数メディアが協力するあちらに比べ勝ち負けではないが独自色を出したかった。とはいえ本人以外の誰も気にしていなかったに違いない。

講演会の企画・運営に携わるようになって約20年。大学側の担当は岡田先生から山根聡先生（大阪大学教授）に引き継がれている。コロナ禍にあっても大阪大学の皆さんの尽力で途切れず開かれ（オンライン開催も含め）、若い読者に目を向けたビブリオバトルもすっかり定着した。成功も失敗もあったが講演会終了後に届くアンケート結果にはいつも励まされた。



司馬さんからの手紙を松明に

1974 年師走、自宅に 1 通の封書が届いた。差出人は司馬遼太郎。刊行と同時に大阪外国語大学モンゴル語専攻の学生たちに読んでほしいと贈られた『街道をゆく五 モンゴル紀行』の感想への返信である。「必ず、感想を送るように」との荒井教授の命に従い、稚拙で阿りのない感想を送ったのだが、まさか封書で返事が来ようとは思ってもみなかった。

手紙は、「筆不精(これは職業柄)で、いろいろお手紙をいただいてもつつい欠礼してしまいがちなのですが、貴兄のお手紙の文章が大変いいので(先輩ということで、批評がましいことは許していただきます。)感じ入ってしまいました。」と始まり、自分たちの学生時代、「青年の夢としてモンゴルの天地はあった」のだが、「いまは、そういうロマンティックな感じ方としてのモンゴルではなくなっているというのもよく分ります。」と感想に寄り添いつつ、原稿用紙 4 枚にわたり、日本でモンゴルを学ぶことの意義を語るものだった。日本の満蒙政策の誤りを明快に語り、自作中のツェベクマさんの言葉を引いた後、司馬さんは次のように結んでいる。

「大阪外国語大学のモンゴル語科が世界のための学問の場であるというふうに、貴兄たちが、そのようにして行って下さい。私どものころは戦争ばかりで、じつにつまらぬ時代でした。私どものころにも優秀な人がいましたが、戦争と戦後の混乱のためにみな中道で変なぐあいになりました。その悔いを後進のひとびとの努力で癒してもらいたく、こんなお返事を書きました。諸兄によろしく。12 月 何日だったかな。夜」

当時、司馬さんは 51 歳。『街道をゆく』の他に、『空海の風景』、『翔ぶが如く』など大作の連載を抱え、まさに日付が分からなくなるほど多忙な日々であったに違いない。

阪外同期でモンゴルだけで飯が食えた者は一人もない。もし、司馬さんからの手紙や磯野富士子さんからの励ましがなかったら、私はとうにモンゴル研究を投げ出していただろう。

幸い、勤務先の理解もあり、本務の傍ら 1979 年から 2023 年まで、母校への出講が許された。自分のためでも、モンゴルや日本の国益のためでもない、平和と共通善につながる「世界のための学問の場」、その創造は貴方自身にかかっているのだという、司馬さんから託された松明の火を 500 人以上の後輩へと引き継ぐことができた。

その頃、中小阪にあったお宅を訪ね、創刊号を謹呈した『モンゴル研究』誌は、「なにがあっても出し続けなさい」との司馬さんの忠言に従い、50 年以上発行され続けている。

菜の花でいっぱい「司馬さんを送る会」に参列してから 30 年が経った今年、戦争と AI の時代の危機について、ローマ教皇レオ 14 世は「Magnifica Humanitas」という回勅(手紙)を世界へ送った。そのタイトルは、司馬さんが小学生のために「ひとりずつへの手紙」として書いた『21 世紀を生きる君たちへ』の趣意書「人間の荘厳さ」(The Magnificence of Humanity)という文章を思い起こさせる。

もし、司馬さんがご存命であったなら、今、わたしたちに何を語ってくれるだろう？



創刊号表紙



最新号表紙

芝山 豊 (大 M25)

日本モンゴル文学会名誉会長。元清泉女学院大学学長。神戸、長野の本務校での教育・研究活動の傍ら、母校でモンゴル文学・思想史を講じた。編著書に『モンゴル文学への誘い』(明石書店、2003 年)、『聖書とモンゴル』(教文館、2021 年)等。



～活躍する卒業生～

大阪芸術大学・非常勤講師

中島裕司 (博士・芸術) 大 DM24

ハンガリー国政府よりハンガリー国騎士十字功労勲章受勲 (ミュオグラフィアートプロジェクト貢献により)

2024 年 10 月ハンガリー政府より、名誉あるハンガリー国騎士十字功労勲章受勲が決定しました。授与式は 2026 年 1 月、駐日ハンガリー大使館で行われました。日本人にとって、フランスはなじみが深いので、レジオンドヌール勲章と言えば皆さんご存じと思いますが、今回私に授与される勲章はハンガリー政府が授与する最高ランクに属する非常に名誉ある勲章です。推薦を受けてから何度も閣議を経て 1 年くらいかけて決定されました。連絡があってからあまりにも待たされたので、予定が立

たず百貨店の個展は消えてしまったりしました。正直、腹が立っていましたが、今となってはそれだけ真摯な価値ある勲章と思っています。受勲の理由は、「ミュオグラフィアートプロジェクト」をアートの要として推進し、ハンガリー国に大きく貢献したということでの授与です。受勲理由のミュオグラフィですが、一般人にはあまり知られていないかもしれません。ミュオグラフィは日本と共にハンガリーが世界をリードしている最先端科学技術です。ミュオン(μ)という宇宙線素粒子の性質を利用して、火山、古墳、ピラミッド、原発等巨大物体の内部を非破壊で透視する非常に高度な科学ですが、日本は火山や地震大国さらに原発などの観点からミュオグラフィが今後さらに発展することが期待されています。現在ではミュオンを使って海底の位置情報や台風内部の動きや、その他色々幅広い応用がなされています。これほど重要な科学技術にもかかわらず、



一般大衆は全く興味を持たないし、ましてや理解はできません。難しい記号や数字や数式や言葉ではほとんど興味を示しませんが、アートは人間の本性として関心を持ちます。一方、科学者はアーティストの異質な作品に触発されてまた新しい科学の発見にもつながる可能性があります。科学・アートの相互作用であり、現在は世界的な動きになってきています。

このプロジェクト(東京大学・関西大学)に携わってから 10 年くらい経過しています。国際ミュオグラフィ学会

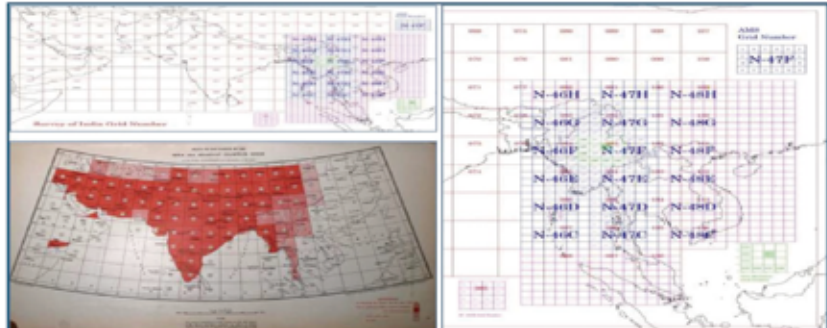
でミュオグラフィアートの講演も何度もしました。ここ数年はサイエンスアゴラ(会場:東京のテレコムセンター)でハンガリー大使館主催のワークショップを行っています。また、万博のハンガリーパビリオンで講演会(7 月)とシンポジウム(9 月)も実施しました。また、毎年 3 月にグランフロント大阪で、ミュ

オグラフィアート展(いろいろなジャンルのアート作品)を開催して鑑賞者に啓発活動とアーティストに作品を制作し、展示する機会を提供しています。ほぼ自分のことを後回しにしてこのプロジェクトにまい進した結果と受け止めています。

アートと科学の融合。アートは単なる趣味ではなく、もっと人間の奥深く入り込んでいる非常に重要な人間の営みです。日本はもっとアートの重要性に気付いて、また美術界も旧態依然の体質から抜け出し、もっともっと幅広く奥深く世に貢献して欲しいと思います。

The 3D-DX Mapping School Starts up in Osaka!!

3D-DX(Digital Transformation Initiative) mapping ; Survey of India style



Satellite Photogrammetry mapping school :
ISO19152- Land Administration Domain Model based

GeoNet, Inc.
(Hiroyuki Hasegawa ; CEO)

Website : www.geonetz.com
Address : Higashi Nakajima 1-5-25-608;
Higashi Yodogawa ward, Osaka city Japan



リスボンの街並み



リスボン近郊の田舎町

私は 2023 年 9 月から 2024 年の 6 月までの間、ポルトガルの首都リスボンに留学していました。それまで国外に行った経験のない私にとって、このポルトガル留学は大きな好奇心と夢に溢れた挑戦でした。20 時間以上のフライトの後、空港から 1 歩外に踏み出し、最初の景色を眺めた瞬間の記憶は今でも忘れられません。

こんな私ですから、国籍や年齢が異なる人々が集まり交流が行われるシェアハウスや大学での生活は、初めのうち多くの困難がありました。英語すら流暢に話せなかった私は、会話を行うためのツールを持っていなかったからです。日本語以外の言語が堪能でない方が留学に行くと、おそらく皆さんが私と同じような壁にぶつかると思います。しかしそんな時こそが「好機」であり「挑戦」の瞬間なのだと今ははっきり感じます。私もただ闇雲に、好奇心によって突き動かされる身に任せ、行動をしました。現地の日本人が主催するサッカーコミュニティに参加したり、街中の空手道場に飛び込んでみました。

外国語学部
ポルトガル語専攻 4 年
長谷川翔哉



全ての挑戦が上手くいったわけではありません。けれど、行動しなければ今にまで繋がるかけがえのない出会いを享受することもできませんでした。また、たとえ行動の先が失敗の経験であっても、心の持ちようで自分にとって必要な時間であったと受け取ることができる今私は考えています。

知ったかぶりで上から目線な言葉を書き続けてしまいましたが、「自分の好奇心に正直に行動すること」が留学においてもその他の生活においても私の軸であるため、したためさせていただきました。また、出会いの中で悪い人ばかりに出会うわけではありません。きっと良い人に出会う瞬間もあります。その縁をどれだけ大切にできるのかも、留学生活をかけがえのないものにするうえで重要なのかもしれません。

せっかくなので、ポルトガルという国の魅力的な点も書かせていただきたいと思います。街並みや街の大きさ、人柄、食、自然の 4 つを私は挙げさせていただきます。オレンジ屋根と坂の多い、まるでジブリの世界のような街並みと、首都ながら小さいその街の規模感は、中世の歴史の風を心に吹かせてくれます。また、ヨーロッパの他の国の人と比べ、寡黙で温和なポルトガルの人々は、懐に入り込むことさえできれば、どんな人も

温かく受け入れてくれる優しさがあります。食においても地中海の国ならではの、肉、海鮮、スイーツといった豊富な種類の食事を兼ね備えています。そして何より私が心動かされたのは自然です。温暖で、1 年を通じ 300 日以上が晴れと言われる天気と、そんな天気の良い日に見られる雲 1 つない綺麗で澄んだ青空は、陽の光を燦燦と私たちにもたらしてくれます。また、欠かせないのはビーチです。澄み切った青空の下、ビーチで日光浴やサーフィ



シェアハウス先の家主とその友人達との食事

ンをして過ごす時間は、生きているだけで幸福であること、私が思っていた以上に私が既に何でも持っているということを教えてくれ、私の人生への視点を大きく変えてくれました。

ポルトガル留学は、私にかけがえのない出会いや思考への刺激を与えてくれました。年齢が何歳であることに関わらず「今のあなたの心に正直な好奇心」に対し、この文章を読んで想いを馳せていただけたら私は嬉しく思います。

現地の日常に触れる ワークアウェイ体験記



満天の星空とオーロラ

「日本ではお米一粒一粒に神様が宿っていると言われてるんだよ。」そう言った途端、目にもとまらぬ速さでキッチンへ走って行ったホストグランマ。帰ってきたその手には、一粒も残さずすぐえるスプーンが 2 本。私はこのような笑いと発見に包まれたワークアウェイをデンマークとノルウェーの 2 カ国で行った。

私は 4 ヶ月間のフォルケホイスコーレでの学校生活を終えた後、北欧の人々の日常生活を体験すべく、ワークアウェイを行った。ワークアウェイとは、ホストのもとでボランティアを行う代わりに、無償で食住が提供されるシステムである。デンマークでは一人暮らしのホストグランマとホリデーシーズンの 1 週間を、ノルウェーでは幼いお子さん 2 人の 4 人家族と 2 週間を共にした。どちらのホストも仕事以上に文化・生活体験を重視していたため、現地の日常に溶け込むように過ごし、私にとって理想的な滞在となった。

デンマークはユトランド半島の南側に位置する Gråsten という町へ。ドイツとの国境に位置する町であるため、ドイツ人も多く、私のホストグランマもドイツ人であった。到着後、町を案内してもらい、デンマークとドイツの友好イベントが行われるという橋や、両国政府の支援を受けるドイツ人学校や図書館、教会など、両国人の共生が進んできた歴史的経緯を目の当たりにした。ここでの仕事は主に球根植えや落ち葉掃除などの庭仕事だったが、冬場で作業も少なく、多くの時間でホスト



クリスマスのサプライズに喜ぶホストグランマ



家族団らんおにぎりパーティー

外国語学部
デンマーク語専攻 3 年
野澤瑞佳

グランマや毎日訪れる様々な友人との会話を楽しんだ。また、船乗り主催の船上パーティーやクリスマスマーケットに行ったり、教会で子どもたちによるクリスマスのお芝居を観たりと、多くの人とふれあい、心温まるクリスマスを過ごした。

ノルウェーは、Bergen から南東にバスとフェリーで約 3 時間の場所に位置する Rosendal という町へ行った。ホストファミリーの家は、ノルウェーで 2 番目に長いハダングルフィヨルド沿いにあり、息をのむほどの絶景に囲まれていた。ホストファザーは日本に非常に高い関心があり、尺八のレッスンを受けたり、独学で日本語を

学んだりしていた。そのため、ここでの私の主な仕事は日本語を教えることだった。ホストファザーからの質問は母語話者の私には難しく鋭いものが多かったが、考えるうちに自分自身の日本語への興味が掻き立てられ、帰国後には日本語の勉強も行うと決心したきっかけとなった。他には、家の掃除や料理、ホストマザーの趣味である家庭菜園を手伝った。また、子どもたちと一緒に遊ぶ時間も多く、最初は緊張しながらも家族のように楽しい日々を過ごした。

これらの滞在を通して、会話を楽しむことができたのは私にとって大きな成長となった。学校にいたときとは異なり、一対一でのびのびとコミュニケーションがとれたため、言語能力への自信も取り戻すことができた。そして何より、仕事や育児をこなしながら、大人になっても好奇心を忘れず様々なことに挑戦する姿に感銘を受けた。

今後も様々なことに興味を向け、心躍る人生を歩んでいきたい。

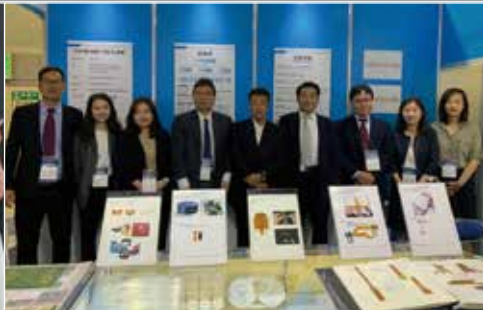


ステイ最終日
ホストファミリーとの集合写真

私のキャリアレポート



2026 年大阪大学箕面キャンパス夏まつりにて



東京ビッグサイト（ネブコンジャパン）にて

私は実家が箕面市だった為に大学まで 10 分という恵まれた環境で大学時代を過ごしました。1988 年に卒業して最初の勤務先は大手の基板メーカーでした。4 年間の本社勤務を終えて、1991 年にシンガポールに赴任しました。当時東南アジアでは日系企業が日本から工場の移転を加速してきた時期で、日本の生活と変わらないハードな仕事が続きました。4 年間のシンガポール勤務を終えてマレーシアに転勤となり、その頃は電機業界がマレーシアに工場を次々と移転しており、マレーシア勤務でもハードな生活が続きました。マレーシアでの 8 年間の勤務を終えて、2004 年からはタイのバンコクに赴任。この頃タイでは車載メーカーを中心に日本からの工場移転が加速した時で、またハードな環境に置かれました。当時日本ではデフレの波が寄せて不況が続いていましたが、幸運なことに私が赴任する国々では好調な経済が続く中での仕事環境が続きました。また海外でも営業一筋で仕事をしてお陰で海外の色々な方々と人脈ができました。

14 年間の海外勤務を終えて 2005 年に日本に戻りましたが、14 年間を常に好景気の国々で仕事をしていたことで、当時の日本の深刻なデフレの中での仕事にやりがいを見出せなくなり、帰国した年に思い切って起業を決めました。成功する当てなど何もありませんでしたが、唯一の希望はありました。それは海外で培った人脈です。長年日本を離れていたの日本には全く人脈はありません。最初はマレーシアとタイで起業しました。基板と FPC の専門商社を立ち上げたものの、直ぐには仕事も取れなくて資金も底をつきかけましたが、中国の基板メーカーの価格戦略にも助けられ 3 年目には少しずつ仕事が取れるようになってきました。中国語も猛勉強して 2007 年に 3 拠点目となる香港にも事務所を構えて、翌年には中国深圳にも拠点を出して、2008 年に TR という社名に統一してマレーシア、タイ、香港、中国、日本と飛び回りました。その頃にはスタッフも雇えるようになり、徐々に軌道に乗ってきました。会社を設立して 10 年が経った 2018 年には念願の日本にも大阪で事務所を構えることができ、翌年には横浜に事務所を



TR (HK) 深圳事務所の社員と

構えることができました。2020 年には韓国にも事務所を構えて、現在は 7 拠点合わせて 25 名の社員で、年商 30 億円にまで発展できました。成功するかどうか分からない起業でしたが、諦めずに 20 年間でここまで来ることができたのは、1991 年以降日本を離れて海外で培った人脈です。まずは誠実に海外の人と接して行く。その 1 点だと実感しています。

コロナ禍の時に香港で外出禁止令が発令されて 1 年近く外出ができなかった時期に、学生時代にやっていた音楽を思い出し、35 年振りにギターを弾いて社歌を作ってみました。卒業後仕事一筋でやって来た中で、還暦を過ぎて残された人生をまた音楽もやってみたいと思い、音楽事務所 TR MUSIC (株) を日本で立ち上げました。現在は自分の得意とする分野の海外で活躍したいという日本のアーティストをサポートする仕事に取り掛かっています。還暦を過ぎて新しい仕事に挑むとは夢にも思っていませんでしたが、コロナ禍にゆっくりと今後の人生を考える中でまたチャレンジしていく精神で行こうと決めました。

2026 年 6 月には母校の大阪大学箕面キャンパスでの夏まつりには、今後海外でも活躍してくれると期待しているアーティストの福島清香さんを招いて母校のステージにも参加できました。卒業後 40 年近くが経ってまた母校のイベントに参加できたのは夢のようです。

海外に出て 35 年間の経験から言えることは、世界のどこにいても最後に頼れるのは人との輪であり人脈です。どこの国に居てもその地域の人と誠実に接することにより人生は開けていくのだと確信しております。

プロフィール
1988 年 大阪外国語大学 II 部フランス語学科卒業後
大手基板メーカーに入社。 1991 年シンガポール赴任。
1995 年マレーシア赴任 2004 年 タイ赴任。
2005 年に独立して基板と FPC の専門商社をマレーシア、タイで起業。 2007 年に香港で起業。2008 年 中国深圳に起業。4 拠点の会社を TR に統一。
2018 年に TR JAPAN 大阪営業所、2019 年 横浜営業所開設、2020 年韓国支社開設。現在 7 拠点 年商 30 億円の売り上げ。
2025 年には音楽事務所 TR MUSIC を設立し現在に至る。

Career Report 1

人生続く限りは挑戦

TR (HK) ・TR JAPAN ・TR MUSIC 代表

田坂雅弘 (ⅡF19)

私のキャリアレポート



大阪・関西万博 広東省ウィーク主催者あいさつ (2025 年 6 月)

「これからの時代は、英語以外にももう 1 つ、日本の近隣の国の言語を勉強したほうがいい。大阪外大の中国語はとても素晴らしいと聞いている」。今から 40 年以上前、高校時代に 1 年間アメリカで交換留学生として過ごし、復学したときの英語の恩師の言葉である。この言葉がなかったら、今の私はない。

中国語科在学中に、1 年間の南京大学への留学を経て新卒で朝日放送に入社した。情報番組やドキュメンタリーの制作に携わっていた私が、十数年前、突如「国際業務」の担当になった。会社が放送広告収入以外の新たな柱を海外に見いだそうとしたからだ。経営陣からのお題は「ベトナムで何かをする」。ベトナムとの縁も知識もなく、実務担当は私一人。なにかって何? 途方に暮れた。そこで、「まずベトナム語を学ぼう」と考えた。

不規則な勤務で教室には通えず、ママ友を頼って見つけた先生が、ベトナムからの定住者支援に尽力されていた北山夏季さん。初回レッスンで、まさかの大阪外大の後輩だと知る。さらに、ベトナムでのビジネス構想を伝え、ベトナム語科の同窓生・山本涼子さんがベトナムのテレビ番組制作会社 MCV 社社長のベトナム人男性と結婚しホーチミン市に住んでいるという。ウソのようなホンマの話である。すぐに繋いでいただき、単身で訪越。あっという間に話が動き、朝日放送の「新婚さんいらっしゃい!」の番組フォーマット (雛形) を MCV 社に販売。2013 年 8 月にベトナム版「新婚さんいらっしゃい」がホーチミン市テレビで始まり、今年で 13 年を迎える。



写真提供: マックアンドサンクベトナム

2022 年からは日本国際博覧会協会に出向し、大阪・関西万博の主催者側として、参加契約、パビリオン建設、会期中の運営から解体まで、アジア・オセアニア 8 カ国を担当した。中国語を学び、中国への留学経験があったことで中国パビリオンの日本側の責任者を任された。半年の会期中におよそ 40 回、中国パビリオンで開催された中国各地から要人を迎える式典では、主催者を代表して中国語で挨拶した。その都度各省・直轄市にちなんだ話題を盛り込み、在学中の暗唱テストさながらにスピーチを重ねた。発音も語彙も相当怪しかったに違いないが、私なりの敬意と謝意を伝えたかった。内モンゴル自治区のイベントでは、南京

Career Report 2

もう 1 つの言葉が拓いた人生

朝日放送テレビ 永野ひかる (大 C39)

大学留学中に知り合い、卒業後に音信不通になってしまっていた内モンゴル出身の友人とも、オンラインで繋がることができた。大阪外大で中国語を学んだからこそ、万博での重責を果たし、30 数年来の旧友との繋がりも生まれたと感じている。184 日間、担当しているパビリオンにはほぼ毎日顔を出し、その国の言葉でスタッフと会話を交わしているうちにあっという間に閉幕を迎えた。



中国館イベント中に音信不通だった蘇莉さんを内モンゴル自治区人民政府スタッフが探し出しオンラインで対面 (2025 年 10 月)

放送局にも万博にも、正解のない仕事は多い。目の前にトラブルが立ちはだかっても、少しでもいいから前へ進む。立ち止まってしまったら、好機は逃げ、問題は膨らむからだ。それが私のキャリアから得た第一の教訓である。もう一つは「語学は身を助く」。言葉は目的ではなく、相手への敬意を伝える最初の一歩だ。その国の言葉で挨拶し、自己紹介するだけで、相手との距離は一気に縮まる。仕事を通じて韓国語、モンゴル語、マレー語 (インドネシア語)、タガログ語、ロシア語、フランス語、タイ語でも拙いながら挨拶ができるようになった。一方、藁をもつかむ思いで始めたベトナム語は、今も挨拶の域を出ていない。長い人生の新たな目標として、ベトナム語を学び直し、他の言語ももう一歩前へ進めたい。失礼を顧みず申し上げるが、大阪大学外国語学部には、ぜひ我々シニア世代向けに対面・オンラインでのリカレント教育をご検討いただけないだろうか。

プロフィール
大阪外国語大学中国語学科在学中、1989 年の天安門事件直後から 1 年間、南京大学に留学。1991 年、朝日放送 (現・朝日放送テレビ) に入社。『おはよう朝日です』など情報番組・ドキュメンタリーのディレクター、プロデューサーとして、番組制作や阪神・淡路大震災報道などに携わる。のちに海外放送局との共同制作、番組販売、海外拠点設立など、海外展開を推進。2022 年 7 月から 2025 年 10 月まで公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会に出向し、国際局審議役としてアジア・オセアニアの 8 カ国を担当。同志社女子大学嘱託講師。全国通訳案内士 (中国語)。著書 (分担執筆) に『放送コンテンツの海外展開ーデジタル変革期におけるパラダイム』(中央経済社)。現在、同志社女子大学大学院文学研究科情報文化専攻に在学中、大阪・関西万博における公式参加者の意思決定と出展実務を研究している。

モンゴル語専攻の今 今岡 良子

大阪大学人文学研究科外国語専攻 准教授
外国語学部 モンゴル語専攻 代表

「さまざまな視点で世界を見る —モンゴル編—」より

2026 年度の「さまざまな視点で世界を見る —モンゴル編—」に関心を持ってくださった皆さん、ご参加くださいました皆さん、ありがとうございました。キャンパス1つ使った大きなイベントになりましたが、7月11日(土)当日の成功だけでなく、途中のプロセスに意義深いものがありました。その一つ、ゲル作りから報告させていただきます。

モンゴル語専攻の授業では、言語だけではなく、文化の授業も実習を行っています。理論を勉強した上で、実際に作ってみる。例えば、ミルクの物性を勉強してから、ミルクを凝乳(curd)し、残った乳清もどうすれば食べることができるかを考えます。羊毛を紡いだり、織ったり、フェルト化したり、内臓の勉強では、Amazonで羊の小腸を取り寄せ、肉を詰めて、腸詰を作ったり、と。

今年度は、遊牧民の移動式住居ゲルを作る目標を持っていました。なぜ、ゲル作りかと言いますと、旧能勢高校(現在は豊中高校能勢分校)の先生と生徒さんたちが作った小型のゲルを、箕面船場阪大前駅のチカノバで立てることにになり筆者が運んできました。工学部の先生と学生さんたちがまちづくりイベントで立てるために、足りない部材を購入し強化してくださいました。ただ、もともと天窓を持たない設計だったので、白い布をかけると天井を塞いでしまい、人が亡くなったゲルのように見えました。SNSの時代になり、民族を代表する文化を紹介する場合、粗相があるとさんざん批判を受けます。それを予防するために、ゲルに天窓をつける改良をすることになりました。

ある学生は、「これを先にした方がいい」「こうした方がいい」ということを先生に伝えたくなり、モンゴル語で話す力がついた、と言いました。これは疲れが吹っ飛ば嬉しい感想でした。通常の会話授業は、教員の授業の設計の下に教員が用意したテキストをもとに行われますが、材料や道具を前にして、どうすればうまくいくか、目標を達成できるか、対等に議論ができたということですね。

能勢ゲルを改良した小型のゲルを記念ホールの中央に立てる時、2年生が初めてゲル立てに取り組みました。来年の夏まつりでは主になって立てることでしょう。ちょうど、モンゴル、カザフ、ブリアートの民族衣装が試着用に30着余り届いていたので、ゲルの前で記念撮影。小型ゲルは柱が1本、ガーデンパラソルを使い、34本の梁は筆者の住む町の竹で作られ、壁に連結しました。創作途中で手伝ってくれたモンゴル人留学生7人が、現在のウランバートルの写真を壁にくくりつけ展示してくれました。1、2年生は、小型ゲルのそばでモンゴル羊毛のワークショップをし、その売上で3階ピロティーに出店していたモンゴル料理を食べる費用を作り出していました。

小型ゲルの改良に取り組んだ3年生は、阪大広場で本物のゲル(研究室で保管しているもの)を立てるワークショップに参加し、改めて本物のゲルの凄さを感じたそうです。

学生たちは、メインの講演の時間には講演を聞き、馬頭琴の音色に聴き入っていました。ある学生は、「講演を聞き、私の中で今までに無かった考え方に出会い、モンゴル語の学習意欲が高まりました。また大阪大学のモンゴル語専攻には長い歴史があり、そのような専攻で学ぶことの貴重さを改めて感じました」と感想を寄せてくれました。

「さまざまな視点で世界を見る」という企画は、モンゴル語専攻の授業の質を高めるいい機会になったと思います。支えてくださった職員さんたちにも、心から感謝を申し上げます。AIの時代にパソコンの中の情報や画像や動画が目目を奪うようなものになっても、それは何かのコピーに過ぎません。やはり、本物を手に取り、材料の質を感じ、匂いをかぎ、自分の五感を使って確認した情報は心に刻まれ、それを表現する言葉が自分の中から生まれます。これからも、日本にいる間は言葉も、文化も、教室で身につけられることは徹底してマスターし、モンゴルの大地を自由自在に走り回れるよう送り出したいと思います。

スペイン語専攻の今 長谷川 信弥

大阪大学人文学研究科外国語専攻 教授
外国語学部 スペイン語専攻 代表



スペイン語専攻の1学年の定員は、阪大との統合以来、35名でしたが、2024年度に4名減員になり、現在は31名と日本語専攻のスペイン語副専攻2名となりました。教員は、専任教員5名(長谷川、松本健二、中本香、岡本淳子、川口正通)とマドリッド出身のスペイン人特任講師1名(モニカ・ペレス)の体制です。特任講師のモニカ・ペレスは、日本語のことわざに関する研究が専門で、これまでに中国と韓国の大学でスペイン語を教えたうえで大阪にやってきました。スペイン語学習者に対する教育の経験が豊富で、学生たちからも慕われています。

学生たちの動向としては、コロナ禍の影響がなくなり、その多くが3年次の後半より留学に出かけていることがあげられます。昨年度は、20名以上がスペインやメキシコに留学しています。そのなかでもスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ大学が募集するインターンシッププログラムに参加する学生たちが、半年の座学のあと、ホテルや自治州の観光案内所などで研修し、実践的なスペイン語運用能力を飛躍的に向上させて帰国しています。



また、スペイン語にかぎらないことですが、近年、学習環境が劇的に変化し、辞書片手にテキストを読むという従来からの学習スタイルに加え、インターネットを利用した教材を利用したり、海外のドラマや映画も手軽に視聴できるようになりました。学生たちの留学前の学習レベルも大幅に改善され、留学によって身につけるスペイン語運用能力が大きく向上していることが感じられます。一方で、自動翻訳やAIの急速な発達によって学習方法にも変化がもたらされ、その効果的な利用方法を早急に考えなければならなくなっています。

最後に、大阪外国語大学の学長も務められた山田善郎先生が今年、100歳になられます。お元気のことがうかがっておりますし、先生の薫陶を受けた卒業生がお祝いをされるとも聞いております。

「交差点」としての語劇祭 佐渡千春

2026 年度語劇祭実行委員会委員長
外国語学部 スウェーデン語専攻 2 年



お初にお目にかかります、2026 年度語劇祭実行委員会委員長を務めさせていただいております、外国語学部スウェーデン語専攻 2 年生の佐渡千春と申します。

本学部が毎年伝統的に開催しております語劇祭という行事は、その名が表すように我々の専攻語・学習言語で劇を上演するものです。毎年多くの方々にご来場いただいている本行事は、我々学生の学修の成果を語劇という形でご来場いただいた方々に提示し、楽しんで頂く場であることは勿論ですが、同時に「交差点」としての役割を持つ場であってほしい、そのような場にしていきたいと考えております。

というのも、私は昨年度の語劇祭では模擬店に携わり、そこで多くの来場者の方と関わる機会に恵まれました。その際、教会で働く傍らデンマーク語劇を楽しみに見に来て下さったデンマーク人のご夫婦、初の試みとして行われたブルガリア語劇にお越しくくださったブルガリア人のご家族、ヒンディー語劇に来て下さった多くのヒンディー語話者の方々、モンゴル語にご興味があり独学されているという主婦の方など、海外にルーツや関心を持たれる多くのお客様と出会い、観劇された演目の「面白かった!」「懐かしかった!」というような感想や劇を上演した学生との交流について多くのお話を伺うことが出来ました。

このことから感じたのは、語劇祭という行事はその劇の言語や文化に興味のある人々が必然的に集まる場であるということと、この行事はただ学生が一方向的に大学での成果を発表するものではなく、母語ではない言語を大学で学ぶ我々もまた、来場者の方々との交流を通じて多くの刺激を受けることが出来る場になりうるということです。語劇祭はいわば、人と人、文化と文化、言語と言語の交差点としての可能性を秘める行事であると深く実感させられました。

さて、このような行事の可能性を本年度も十分に活かし、昨年度までの先輩方の育ててきた語劇祭をより良いものにしていくために、2026 年度語劇祭実行委員会は各語劇団と連携し今まで以上に全力で活動して参ります。これをお読みの皆様と当日箕面キャンパスでお会いできることを心より楽しみにお待ちしております。

マンスリー多文化サロン 月に一度の世界探訪。学びが広がる公開講座

2018 年 10 月から第 3 木曜日に開催を続けている「マンスリー多文化サロン」は、現在も箕面キャンパスの大講義室を使って毎月開催しています。このサロンでは市民の方々に学びを提供する機会のひとつとして、外国語学部の先生方がオムニバス形式で各国の文化等について講義を行っています。オンラインと対面のハイブリッド形式にて開催しておりますので、遠方からもご参加いただけます。なお、対面参加の場合は事前申し込み不要でお越しいただけます。



詳しい内容・テーマなどは下記 QR コードからご覧いただけるページに毎月掲載されますので、ぜひご覧ください。



古典芸能案内人

文楽、落語、歌舞伎の面白さを伝えます。

天野光 (本名・天野豊子)

AMANO HIKARU

文楽、落語、歌舞伎のセミナー依頼受付中。古典芸能案内人で検索!!!

アメブロ: <https://ameblo.jp/koten-geinou-guide/> 古典芸能のスズメ: <https://artcoordinator.com/>
e-mail: artcoordinator2@gmail.com フェイスブック: [amano.hikaru.2](https://www.facebook.com/amano.hikaru.2)

新企画 第1回「OUGC 世界ひろば」を開催



2026年7月3日(金)、箕面キャンパスにて、第1回となる「OUGC 世界ひろば」を開催しました。本イベントは、地域の方々と大阪大学教員・学生とが近い距離で交流しあいながら世界の伝統・文化について学び、外国語学部での学びにふれていただく機会をつくることを目的として、新たに企画したものです。記念すべき第1回は、インドネシアの伝統影絵芝居「ワヤン」を学ぼうをテーマに開催しました。



この日、第1部では菊池 正和外国語学部長の挨拶に始まり、留学生たちによるインドネシアの伝統文化の紹介があったほか、ブースに分かれて楽器や衣装、食べ物、またワヤンの影絵人形にも実際に触れていただきました。参加者の皆さんは熱心に留学生たちの説明に聞き入っていました。

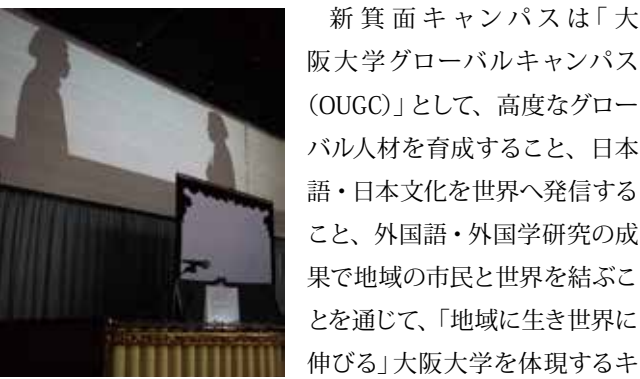


第2部は実際に「ワヤン」の上演を見学しました。影絵劇に楽器演奏、サウンドデザイン、ビデオアートなどを組み合わせた実験的創作の作品を楽しみました。語りや朗読はジャワ語と日本語を用いた多言語での上演となりました。インドネシア



の伝統影絵劇に基づく新たな創作の世界観に浸る貴重な時間となりました。

今後、本イベントは不定期に開催し、さまざまなテーマで幅広く楽しんで、学んでいただける企画を行っていく予定です。次回の開催については、外国語学部ホームページにてご案内予定です。ぜひチェックしてみてください。



新箕面キャンパスは「大阪大学グローバルキャンパス(OUGC)」として、高度なグローバル人材を育成すること、日本語・日本文化を世界へ発信すること、外国語・外国学研究成果で地域の市民と世界を結ぶことを通じて、「地域に生き世界に伸びる」大阪大学を体現するキャンパス、地域づくりを目指しています。

詳しくはこちら→

イベントの開催案内もこちらから随時ご確認いただけます。



◆ 告知板 ◆

◆ 受勲者・受賞者のご披露

● 令和7年秋の叙勲 瑞宝双光章

金野龍一 元大阪外国語大学学生部長(事務)

● ハンガリー国騎士十字功労勲章

(2024年7月受賞、2026年1月勲章授与式)

中島裕司氏 大阪芸術大学 非常勤講師 関西ハンガリー交流協会事務局長(大DM24)

ハンガリーとの友好交流の促進に貢献するとともに、同国が国家的に推進する先端科学分野であるミュオグラフィを、アートを通じて国内外に広く発信する活動に長年尽力した功績が認められ、勲章が授与された。

◆ 令和7年度退職教員

岸田文隆	人文学研究科	教授(朝鮮語)
近藤久美子	人文学研究科	教授(アラビア語)
大澤 孝	人文学研究科	教授(トルコ語)
大津智彦	人文学研究科	教授(英語)
海野典子	人文学研究科	講師(トルコ語)
李 佳	人文学研究科	特任講師(常勤)(中国語)
趙 瑜美	人文学研究科	特任講師(常勤)(朝鮮語)
RAPPE GUIDO	人文学研究科	特任准教授(常勤)(ドイツ語)
SCHULTS LAURITZ KORFIX	人文学研究科	特任講師(常勤)(デンマーク語)
WATTS DAVID ALISTAIR	人文学研究科	特任准教授(常勤)(英語)
AKITI DEZEM ROGERIO	人文学研究科	特任准教授(常勤)(ポルトガル語)
DUJO DANIEL BRUNO	人文学研究科	特任講師(常勤)(フランス語)

着任のメッセージ



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
中国語 特任講師

楊 彩虹
ヤン サイホン

2026年4月に特任講師として着任しました。専門は中国語教育と日中対照研究です。多様な教室活動を通して、学生が楽しんで実践的な中国語を身に付けられる学習環境づくりに努めています。研究だけでなく、社会貢献にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
朝鮮語 助教

影本 剛
かげもと つよし

近現代朝鮮文学の研究をしています。10年ほど大韓民国に留学していました。全く新しい環境でまだまだわかっていないことだらけですが、これまで勉強したことを存分に生かして外国語学部の学生、そして同僚の皆さまと勉強していきたいと思います。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
アラビア語 助教

竹田 敏之
たけだ としゆき

埼玉県大宮市生まれ、大阪外大出身です。専門はアラビア語学・中東地域研究で、古典アラブ韻律学や湾岸諸国の詩文化を研究しています。このたび着任し、アラビア語の教育・研究に携われることを嬉しく思います。大阪大学に息づく「知」の伝統に学び、力を尽くしてまいります。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
トルコ語 助教

山下 真吾
やました しんぺい

大阪大学人文学研究科・外国語学部に助教として着任した山下真吾です。トルコ語専攻で、トルコ語やオスマン・トルコ語の授業・ゼミを担当しています。研究の専門としては、オスマン朝時代の都市、教育、図書館、また近現代トルコについても研究しています。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
トルコ語 助教

AKBAY, Okan Haluk
アクバイ オカン ハルク

世界25言語の専攻語を要する本学で、トルコ語及びチュルク諸語の一つであるカラチャイ語の研究及び教育に携わる機会をいただき、大変光栄に存じます。今後も学びを深めながら研鑽に努めてまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
ハンガリー語 助教

市原 晋平
いちばら しんぺい

ハンガリー語専攻に助教として着任した市原晋平と申します。出身は他大学ですが、旧大阪外大のころから、ハンガリー語の習得などで本学部にはお世話になってきました。専門は歴史学で、ハンガリーで歴史上「ツィガーニ」と呼ばれてきた少数派集団について研究しています。また、日本・ハンガリー関係史にも関心を持っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
ドイツ語 特任講師

HAAR INGO
ハール インゴ

中国での12年間の教育・研究活動を経て、2026年にドイツ語専攻に特任教員として着任しました。専門は歴史学史、科学史、移住・強制移住、ユダヤ学です。著書に『ナチス政権下の歴史家たち』(2002年)、『ウィーンとベルリンにおけるユダヤ人の移住と多様性 1667/71-1918』(2022年)があります。また2005年には、米国図書館協会(ALA)より"Choice Outstanding Academic Book Title"、オーストリア共和国科学基金賞(2007年)、ウィーン市科学技術財団賞(2010年)を受賞しています。外国語学校として古い歴史を持つ当学部が、今やドイツ研究における日本有数の研究組織に発展していることに感銘し、私自身がこれから国際的に注目される研究活動を支援し、今後の発展に関わることで名譽を感じています。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
デンマーク語 特任講師

Michael Nguyen
ミケール グ エ ン

今年4月に着任いたしましたミケール・グエンです。デンマーク語・文化・文学を担当しています。専門は文法研究で、比較的珍しい研究分野である句読法にも関心を持っています。学生の皆さんとともに学びながら、教育と研究に励んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
英語 助教

村岡 宗一郎
むらおか そういちろう

2026年4月に着任いたしました。英語の歴史を中心に、現代の英語に見られる様々な謎を解明できるよう、日々研究をしています。普段の授業では、英語の歴史を通じて、多くの受講者に英語だけでなく、英語と関連のある諸言語にも興味を持ってもらえるような授業を心がけております。よろしくお願い申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
英語 特任講師

Jason HENWOOD
ヘンウッド ジェイソン

このたび大阪大学人文学研究科外国学専攻に着任いたしましたヘンウッド・ジェイソンです。カナダ出身ですが、大阪で長く英語教育に携わってまいりました。学生の皆さんとともに学び、学生主体の活動や対話を重視した授業を通して、英語力と異文化理解を深める教育に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
フランス語 特任講師

Jean-Noël Polet
ジャン ノエル ポレ

はじめまして。本年度より人文学研究科・外国語学部のフランス語専攻に着任したジャン＝ノエル・ポレです。新入生から上級生まで多様なレベルでフランス語の魅力と奥深さを教授できることは大きな喜びです。在学生から卒業生まで、フランス語を介した文化的なコミュニケーションが広がるよう努めていきます。



「Six six Sixties」

外大軽音楽部 OBOG 久保田哲也 (大 IN35)

外大軽音楽部 OBOG 有志による毎年恒例のライブイベント、今回は「Six six Sixties (ロックろっく 60 歳)」と題して 2025 年 11 月 2 日に開催されました。数十年ぶりにメンバーが集結したハードロックバンド「絆」、還暦を迎えた仲間達が中心の「The 84MEN」、80's 英国 NewWave を代表する Thompson Twins を巧みにカバーした「OASOBI」など計 10 ユニット 34 名が素晴らしいパフォーマンスを披露。多くの懐かしい面々が集いそして語らい、音楽を通じて楽しい一日を過ごしました。回を重ねるにつれ、これまでは「聴く側」だった方が「再び楽器を手に」して、コンスタントな音楽活動を再開される例があちこちで見られ嬉しい限りです。今年の開催は 2026 年 11 月 1 日、会場は江坂 TwinReverb です。「1985 Rock Of Ages」、1985 年入学のみなさんを中心とした一夜限りの Special Band も登場します。詳細は、X「大阪外国語大学軽音楽部卒業生掲示板@ OUFSLMC2020」で発信中。いまだから逢いたい仲間たちが集う一日を目指して楽しみましょう。ぜひライブ会場へ遊びにいらしてください。お待ちしております。



いよいよ創部 100 周年記念演奏会！ ぜひご来場を！！

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団 大阪代表 栗生 昇 (大 K33)

我々のグリークラブは大正 15 年 (昭和元年) 創部で、昭和 100 年にその歴史が重なります。いよいよ、今年 10 月、創部 100 周年記念演奏会を東京、大阪で開催致します。

右の写真は大阪公演のチラシで、原画はグリークラブの先輩、アニメーション作家の古川タクさん (昭和 39 年イスパニア語学科卒) に、男声合唱組曲「月光とピエロ」に因んで制作頂きました。

男声合唱組曲「月光とピエロ」は、創部初期の第 5 代指揮者であった、作曲家 清水脩 (昭和 7 年仏語科卒) の作品で、男声合唱組曲の傑作と高く評されています。

大阪公演では、外大グリーOB約 60 名に加え、大阪男声合唱団 (大阪大学男声合唱団 OB) から約 20 名、そのほか一般応募の方々を含め、約 150 名の大会唱でこの月光とピエロを演奏し、100 周年演奏会の最終ステージを飾る予定です。

我々の 100 年間の様々なえにしに思いを馳せ、一曲一曲に心を込めて歌います。

この記事をご覧の皆様に、ぜひ 10 月の 100 周年記念演奏会に多数ご来場賜れますことを願っております。

大阪公演：2026 年 10 月 12 日 (月・祝)

茨木市おにクル ゴウダホール (13:30 開演)

東京公演：2026 年 10 月 25 日 (日)

浜離宮 朝日ホール (14:00 開演)

チケット等のお問い合わせは下記へお願い致します。

大阪公演：大阪代表 栗生 (kurio1122@ezweb.ne.jp)

東京公演：東京代表 永谷 (nagatani1361@gmail.com)



アメリカンフットボール部 GAMBLERS 創部 50 周年記念式典

藤原隆幸 (大 E36、GAMBLERS11期)

「加山雄三の若大将に憧れて (1 期主将 岩田欣治氏)」誕生した大阪外国語大学アメリカンフットボール部 GAMBLERS が 2025 年、発足 50 周年を迎え、同年 9 月 13 日 (土) に大阪大学箕面キャンパスの大阪外国語大学記念ホールで記念式典が開かれ、約 40 名が出席しました。



長年監督を務められ現在は阪大アメリカンフットボール部 TRIDENTS の OBOG 会副会長の大島幹雄氏 (5 期) が開会の挨拶。来賓の竹村景子・阪大理事・副学長 (外大卒) からは、学生時代に同期だった部員との思い出が語られました。

また、阪大との統合年である 2007 年に最終シーズンを戦った木戸口徹平氏 (31 期) が、チーム最後の試合の最終プレーにまつわるエピソードを披露。式典後の懇親会では全員がコメントを繋ぎ、津田治彦氏 (5 期) の「All Men, Huddle!!」の号令で集合。藤井伸一氏 (10 期) の「大阪外大アメリカンフットボール! フレーフレー!」の掛け声に合わせた手拍子で締めくくりました。

その後は MK タクシーフィールドエキスポ (吹田市) へ移動し、阪大の秋季リーグ初戦を観戦。50 周年を記念してヘルメットに GAMBLERS のシールを貼って戦う後輩たちへ声援を送りました。大学統合によりチームは一本化され名前はなくなりましたが、創部からの DNA は外国語学部の学生が多い TRIDENTS へ確実に受け継がれています。



大阪外大ピアノ同好会 since1984 復活祭

山本和子 (大 B34)

早春の 3 月 8 日、同好会を OUFs ピアノクラブとして初の同窓会を開催。40 年ぶりの再会を果たした 5 人と次世代メンバーが東京品川に参集し、関東のみならず遠方からも駆けつけられ歓談のひとときを過ごしました。

約半年かけてお声がけした際には咲耶会事務局のご協力も得ました。急な話にも快く参加を希望して下さった方には近況プロフィールを伺って、そこへ発足時のエピソードとクイズも付けた冊子を当日配布。懐かしむアラ還女子と、ルーツを垣間見た次世代の人達それぞれが学生時代を思い出されたのではと思います。

ピアノは独立性が高いので、とすれば腕前披露に終始するかも知れないコンサートも、企画構成からパンフレットやポスター、立て看板を作りお互いの完成度を見守る手作り感は同好会の醍醐味でした。合わせる楽しさが魅力の連弾の中でも元祖級のアイネクライネは、練習時の音源に笑い声や吹奏楽器の音まで入って、賑やかな当りが偲ばれる 1 曲です。箕面船場キャンパスのロビーにあるピアノは、間谷のサークル棟で連弾の練習をした追憶の 1 台です。卒業後、日本や海外各地で暮らす社会人にとって、時間や環境の制約を受けての練習は至難ですが、ピアノ繋がり私達ならではの発表と集いの場を今度は大阪で、と年長女子は話しています。

この投稿を目にされた同窓生の方にはまたの機会にお会いできますよう、そして楽しみとしてのピアノと一緒に続けて頂けたらと願っています。



令和7年度 咲耶会総会のご報告

令和7年度咲耶会総会が11月8日(土)、箕面キャンパスの大阪外国語大学記念ホール・大講義室にて開催されました。総会の出席者67名、委任状提出者394名、計461名で、講演会には72名、懇親会には62名が参加しました。午後1時30分の総会開会から、咲耶出版大賞表彰式、講演会、懇親会と続き、午後6時に閉会となりました。

第一部の総会では、令和6年度の決算報告と令和7年度の予算案を承認。新入会員が減少、年会費は予算額をほぼ達成できた一方で、賛助金が伸び悩み、収入面で目標額を達成できなかったことに加え、4年に一度の同窓生名簿発行の現況把握のため会報を全員に送付したことから通信費等の支出が増大。5年ぶりにプライマリーバランスが達成できず、160万円あまりの赤字となりました。令和7年度の予算案については、入会金収入の改善が期待し難い状況から、現実的に達成可能な予算額とし、会員の皆様に厳しい財政事情をご理解いただくためにも、120万円の赤字予算としました。

本部役員の選任では、16年間幹事を務め、九州地区の活性化にご尽力くださった、宮崎支部の笹原敬生氏(大IN27)が退任。新幹事に、片田聡氏(大DM36)と男成健一氏(中南米大S49)が選任されました。お二方の自己紹介文をP24に掲載しています。

第二部前半では、第10回「咲耶出版大賞」の表彰式が行われ、青木伸也選考委員から選考結果を発表。大賞受賞者の元朝日新聞記者・編集委員の川上泰徳氏(大A29)の受賞スピーチが行われました。川上氏には、賞状とトロフィー、賞金5万円が贈呈されました。咲耶出版大賞の詳細については、P23をご覧ください。

後半の講演会では、大和大学教授で、元産経新聞社モスクワ支局長の佐々木正明氏(大R44)に、「戦後80年、キーウに鳴り響く空襲警報～ウクライナ取材報告 現地では何が起きているか～」の演題で、現地取材をもとに、ウクライナの現状について、長年第一線で活躍されてきたジャーナリストならではの視点で、戦禍に苦しむウクライナの人々の実情と平和への想いを熱く語っていただきました。

第三部の懇親会では、来賓として、大阪大学同窓会連合会会長の岸本忠三氏、大阪大学理事・副学長の藤尾慈氏、東京外語会関西支部長の五十嵐高雄氏をお迎えし、ご挨拶いただきました。学生を代表して、語劇祭実行委員長の石原月姫乃さん、夏まつり実行委員会副委員長の末岡虎太郎さん、運営部署長の喜多涼介さんに活気あふれるスピーチをいただきました。

最後は、2026年に創部100周年を迎える大阪外国語大学グリークラブOB合唱団有志の方々に学歌と愛唱歌をご披露いただき、会場が一つとなる中、青木伸也副会長の閉会のご挨拶で幕を閉じました。(文責：井上泰子)

会費のクレジット決済をご活用ください

2018年4月から、咲耶会では会員の皆さまからの会費、賛助金を少しでもご協力していただきやすくするために、クレジット決済を導入しています。年々、会員が増加し咲耶会活動にかかる予算も増加する中、皆さまのご協力、ご支援で咲耶会活動の活性化と母校支援を充実させていきたいと存じます。海外からのお支払いも便利になりましたので、海外支部の皆さまには、ぜひご活用いただきますよう、よろしく願いいたします。詳細は、咲耶会ホームページをご覧ください。

このクレジット決済は咲耶会のデータ管理、名簿作成で長年業務委託している株式会社サラトのシステムを利用していますが、クレジット決済に関するクレジット情報はSMBCGMO PAYMENTにのみ残るシステムで運用していますので安心してご利用ください。

※ご利用いただけるクレジットカードは、VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、DINERSです。
 ※咲耶会ホームページから、クレジット決済ページへアクセスすることができます。

<咲耶会ホームページ> sakuyakai.net

なお、2019年度から、会報『咲耶』賛助金を、会報以外の多目的に活用させていただくため、単に「賛助金」といたしております。皆さまの温かいご理解のもとご支援よろしく願い申し上げます。

コンビニエンスストア・郵便局でのお支払いに関する留意点

●振込用紙のコンビニバーコードでスマホ決済が可能になりました。
 ◇2022年度よりコンビニ用バーコードをスマートフォンの以下のアプリで決済できるようになりました。ご利用方法につきましては各アプリのホームページでご確認ください。
 ◇ご利用可能なアプリ：PayPay、auPay、LINE Pay、PayB

●郵便局での窓口現金振込の手数料が廃止されました。
 ◇2024年1月22日(月)以降、郵便局から現金でお振込みいただく場合、振込人負担として110円が加算されていた振込手数料が廃止されました。この料金は、2022年1月17日に導入されたものです。この改正により、窓口やATMで現金で支払う場合も、通帳またはキャッシュカードにより口座から支払う場合も、同一の料金となります。

毎年、当会より会員のみなさまへ送付する同窓会報に振込用紙を同封しています。お手元に届きました振込用紙をご利用ください。払込手数料は、当会が負担いたします。ご利用いただけるコンビニエンスストアは以下のとおりです。



■振込用紙は下記の3種類を同封しています。
 ③については、別紙となっています。
 ①年会費 3,000 円のみ送付用 (郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
 ②年会費・賛助金一括送付用 (年会費 3,000 円、賛助金一口 3,000 円、計 6,000 円を一括してお送りいただけます。郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
 ③年会費 3,000 円+賛助金2口以上の一括送付用 (郵便局でご利用ください。金額欄は空欄です。年会費と賛助金の合計額をご記入ください。)
 振込用紙を紛失した方は、郵便局もしくはクレジットカードでの払い込みをお願いいたします。(コンビニエンスストアでの払い込みはできません。)



咲耶会主催の「新入生ウェルカムパーティ 2026」が開催されました。今年も、例年並みの申込者数があり、全体で60名程度の会となりました。

内容は毎年大きくは変わりません。新入生の参加をメインにしつつ、上回生や先生方にもご参加いただき、また運営をする咲耶会スタッフも各ゲームやキャンパスウォーク、交流に参加します。会場にいる全員で楽しむことを目的にしているのが本イベントの特徴となっています。

今年は部活紹介で、大阪大学外国語学部 茶道部楓の会、大阪大学外国語学部 写真部、夏まつり実行委員会、語劇祭の4団体が参加。上回生だけでも10名近くがご参加くださいました。

昨年の『咲耶 36号』での寄稿で「咲耶会や同窓生とのタッチポイント」としての役割を意識し～と述べておりました。継続しているからこそ、現役生との関わりが増える一方、ウェルカムパーティのような取り組みの運営や企画の部分から現役生に関わってもらったり、次の世代へどう引き継ぐかをそろそろ考えていく必要があるなあと感じる場面が増えてきました。(担当する私が、10年以上これに関わり、少しずつ新入生との年齢が遠くなっていくを感じるからではありますが…)

年に1度の企画ではありますが、現役生と咲耶会が繋がりをもつ1つの機会としてどう活用できるか検討も進めながら、また来年もこの楽しい会を継続できればと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

咲耶会本部メルマガの開設についてご協力をお願い

会報『咲耶』については、1991年に新装第1号を発行して、本年度は37号を数えることになりました。それまでの有料配付から、住所登録をされた全員の方に原則として無料配付となり、発行部数も、有料時代の800部から今は2万部を超える状況です。母校と同窓生をつなぐ大切な手段であることに変わりはなく、今後も誠心誠意取り組んでまいりますが、昨今の出版物デジタル化の進展、とりわけ若い世代のコミュニケーションツールの変化に対応するため、従来のホームページ、SNSに加え、メルマガでの情報発信にも徐々に注力したいと考えています。

昨年来、若手活性化委員長の福山泰海幹事の意欲的なご提案により、役員、関係者間でその実現に向けて、さまざまな観点から検討を重ねてまいりました。メルマガについては、すでに東京支部での取り組みの実績があり、活用されている方々も多いかと思います。その利便性、即効性に加え、郵送料等の発送費の節約にもつながります。同窓会や大学主催のイベントや講演会もより迅速にご案内でき、有益な情報のご紹介等、リアルタイムでお伝えすることも可能です。既刊の『咲耶』については、咲耶会のホームページから読むこともできますが、ご希望の方には、メルマガでお届けすることもできます。

つきましては、メルマガ開設への第一歩として、eメールアドレスをご提供いただくことから始めたいと思います。皆様のご協力により、できる限り多くの方のアドレスがご登録いただけますよう、期待しています。ご提供いただいたeメールアドレスにつきましては、咲耶会の各支部、専攻語同窓会と共有することをお許しいただきたく、支部、専攻語からの情報発信にも活用させていただきます。具体的には、別紙のQRコードからアンケートにお答えいただき、eメールアドレスをご登録くださいますようお願いいたします。

メルマガの開始については、2027年4月1日を目途に準備を進めてまいります。メルマガの活用により、世代を超えて同窓の絆が強まり、交流の輪が広がることを願っています。

学生による「咲耶会モニター」募集！

外国語学部後輩の皆さん、「咲耶会モニター」をお願いできませんか。「咲耶会って何をするところだろう」、「先輩はどんな分野で活躍しているのだろう」、「先輩に会って就職や進路のことを聞いてみたい」、「こんなイベントがあるなら参加したい」等、学生の皆さんに、同窓会への質問や要望を聞いていただくのが主なミッションです。

興味、関心があり、ご協力いただける方は、下記、咲耶会事務局までご連絡ください。ささやかですが、お礼を差し上げます。
 【咲耶会事務局】箕面キャンパス1階、エレベータホール奥(月、木の10:00～16:00開局) TEL & FAX: 072-728-2327
 Eメール: sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

第11回咲耶出版大賞が決定しました

選考委員長 石野伸子（大 D22）



卒業生らが出した出版物の中から、同窓生に薦めたい本を選ぶ「咲耶出版大賞」。11 回目を迎えた今年度は9作の応募があり、全会一致で『広がることば 現代華語文学アンソロジー』（朋友書店・2025 年 11 月刊）が選ばれた。青野繁治・大阪大学名誉教授が監修者となっているこの本には、8編の現代中国文学の短編が収められている。翻訳はすべて大阪外大・大阪大学で青野氏に中国語を学び、修士・博士号の学位を取得した若き研究者ら。作品はこの本のために訳出されたものだ。丁寧な作者・作品紹介があり、いずれも現在活躍中の作家による作品であることが分かる。文革時代の苦い思いを吐露するもの、激変する都市の片隅で起きる悲劇、ハードワークに翻弄されるドラマ制作者。現代を生きる意味を問う物語がさまざまに展開する。

本ができるまでの経緯も興味深い。恩師・青野氏が 2019 年に退職するにあたって、教え子たちが何か記念をしたいと考えた。すぐに翻訳集の企画がまとまったが、完成までには長い時間がかかった。原作者との交渉、各担当者の足並み。この種の出版の苦労がしのばれる。困難を乗り越え、出版にこぎつけた中国語科の底力を感じる。と同時に、中国語に限らず、外国語を学ぶことの意義を再確認できるところもオススメのポイントだ。

青野氏が序文で記している。外国語学部における文学研究と、文学部の文学研究はどこが違うか。あえて評価の定まらない現代にターゲットを定め、直接作家たちと交流することによって彼らを理解する。作品を知る。文化を学ぶ。だからこそ、関心は中国大陆だけでなく、香港、台湾、華僑へと広がっていくのだ、と。本書のタイトルには「現代華語文学」という言葉が使われている。表紙は懐かしいキャンパスの絵だ。

夏まつり「咲耶会特別企画」

6 月 27 日（土）の夏まつりは、台風 7 号と 8 号の 2 つの台風と重なり、前日まで中止が心配されましたが、規模を縮小して屋内会場を中心に何とか開催の運びとなりました。何か月も前から周到に準備を積み重ねてきたイベントだけに、実行委員会の学生たちもほっとしたことと思います。

咲耶会では、今年も記念ホールでの展示部門に参加しましたが、悪天候にもかかわらず、予想外の盛会でした。母校創設期からの歴史や咲耶会の活動の様子を伝えるパネルや資料を展示、熱心に見入るさまざまな世代方々の姿が印象的でした。例年好評のチェキは 100 枚で打ち止めとしました。



今回は、元外交官の中村一博氏（大 S25）が著書 100 冊を寄贈してください、咲耶会のコーナーには、著者のサインを待つ若者で行列ができました。著書名は、『地球を平和にする方法！ みんな地球人になあれ』。長年外交官として世界を舞台にご活躍、退職後も卓越した語学力とこれまでの経験を活かしたボランティア活動に取り組まれている筆者が、平和を強く願う気持ちから、青少年向けに執筆されたものです。予定の 100 冊は見事に完売、「ヒロじい」こと、筆者との会話がはずみ、世代を超えての楽しい交流の場となりました。

同じコーナーで、グリークラブ OB 合唱団の「大阪外国語大学グリークラブ創部 100 周年記念演奏会」の案内チラシと招待券を配布。多くの来場者の関心を集めました。演奏会は 10 月 12 日（月・祝）、会場は茨木市のゴウダホール（おにクル 4F）です。夏まつりと並行して、大学主催のオープンキャンパスの模擬授業が記念ホール前の大会議室で行われ、参加者の高校生と保護者が記念ホールに立ち寄ってくれました。東京や福岡等、遠くからも来られていて、外国語学部が受験生にとって、憧れの進路先であることを誇らしく思い、咲耶会の活動が、学部の歴史や伝統、文化を知っていただく好機会となったのではと、うれしい気持ちになりました。

第12回「咲耶茶論」開催

講演会・勉強会組織委員会 委員長 深川泰博（大 E16）



第 12 回「咲耶茶論」が 2026 年 2 月 14 日（土）に開催されました。会場は大阪大学箕面キャンパス 2F の学術交流室。講師は当会の幹事で、大阪外国語大学ドイツ語科 1974 年卒業の石野伸子氏。同氏は卒業後、産経新聞大阪本社に入社、文化部長、編集局編集委員（東京、大阪）を歴任。2019 年まで勤務された女性ジャーナリスト。

当日の演題は「外語出身の 2 人の作家―司馬遼太郎と庄野潤三」で、この二人の作家を論じるにあたり、石野氏は近年、大阪で注目されている「帝塚山派文学」について言及。帝塚山派とは昭和の一時期、大阪南部の住宅地の帝塚山に多くの作家が住み、ひとつの文化圏をなしていた、という考えから 2019 年に「帝塚山派文学学会」を作り、研究が続けられている。同会の設立趣旨には次のようなくだりがある。「大正期に住宅地として開発された帝塚山には、文学者が多く住み、

ひとつの文化圏をつくっていた。それはよくいわれるど根性やがめつい大阪とは一線を画す上質で豊かな大阪を体現していた。大阪が持つひとつの美德である含羞の作家たちを再評価・顕彰しよう。

今回取り上げた一人目の作家、司馬遼太郎は 1944 年大阪外国語大学蒙古語科を卒業、産経新聞社に入社、新聞記者になったが、当時大阪文化の中心であった帝塚山派の人々と交流、大きな刺激を受けた。その中には司馬が外大モンゴル語に入るきっかけを作った藤澤桓夫がいるし、また後に「石浜文庫」として外大に貴重な蔵書をのこした東洋学者の石濱純太郎がおり、また彼の長男で司馬とは戦友の石浜恒夫らがいた。司馬は帝塚山派の作家ではないが、作家としての出発点で彼らと深く交流したことは興味深い。

もう一人の作家、庄野潤三は司馬より 3 年早く大阪外国語学校英語部に入学。その後、九州帝大文学部で東洋史を専攻、朝日放送に入社。1955 年には「プールサイド小景」で芥川賞を受賞、静謐な「家族小説」を書き続けた。庄野潤三こそ、帝塚山生まれで帝塚山育ち。作風もまさに帝塚山派文学にふさわしい代表格といえる。司馬同様、今もその作品は多くの人に愛読されている。

当日来聴したおよそ 40 名の出席者は、外語の生んだ二人の作家、司馬遼太郎と庄野潤三、および彼らの出現に少なからず影響を与えた昭和初期の大阪文壇、特に帝塚山派文学学会の姿を活写された石野氏の話に大いに感銘を受けた様子であった。

～新役員紹介～



男成健一
（中南米大 S49）

大学を卒業して四半世紀が経ちました。地元宮崎で公務員として働く中で、ふと大学時代のことを懐かしみ、あの頃にもっと色々挑戦すべきだったなとしみじみと思うことがある中、奇遇にもこのような機会をいただきました。母校の方々の繋がりを更に深められるよう、微力ながら支えていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



片田 聡
（大 DM36）

この度、咲耶会の幹事に名を連ねます片田です。一昨年末まで 8 年トルコに駐在、その際に、イスタンブル支部の設立などで、咲耶会との関係が深まり、幹事へのお誘いを頂きました。卒業から勤務していた会社は、帰国後に退職、同じ海事関係の企業に転職、現役を続けています。まだ、海外との行き来や、関東在住でもあり、お役に立てることは少ないとは思いますが、宜しく御願ひ致します。



中本 香
（大 S43/ 院 S27）

この度、咲耶会の幹事を拝命しました中本香です。大阪外国語大学イスパニア語専攻から大学院に進み、母校で教育と研究を続けさせていただいております。外国語学部の運営においては、25 年近く「なんでも相談室」の室員を務めてきました。学生たちの悩みや改善を求める声に耳を傾けることを通じて、教員として気づかされることが何度もありました。その経験を咲耶会の活動にも活かせればと思っています。

令和7年度 決算報告（令和 7 年 7 月 1 日～令和 8 年 6 月 30 日）

	決 算	（単位：円）
収 入	入会金収入	925,000
	年会費収入	4,038,000
	賛助金収入	2,563,000
	咲耶広告収入	313,340
	名簿及年史収入	1,108,040
	総会収入	255,000
	雑収入	91,528
	合計	9,293,908
支 出	援助金	300,000
	事業費	731,280
	運営費	3,869,171
	咲耶作成費	2,797,713
	咲耶通信費	2,245,558
	合計	9,943,722
	収支差額	-649,814

期首正味財産（前期より繰越）	35,851,178
期末正味財産（次期へ繰越）	35,201,364

令和 8 年度 予算案（令和 8 年 7 月 1 日～令和 9 年 6 月 30 日）

	予算案	（単位：円）
収 入	入会金収入	1,000,000
	年会費収入	4,500,000
	賛助金収入	2,550,000
	咲耶広告収入	277,000
	名簿及年史収入	70,000
	総会収入	400,000
	雑収入	135,000
	合計	8,932,000
支 出	援助金	300,000
	事業費	910,000
	運営費	3,730,000
	咲耶作成費	2,800,000
	咲耶通信費	2,200,000
	合計	9,940,000
	収支差額	-1,008,000

期首正味財産（前期より繰越）	35,201,364
期末正味財産（次期へ繰越）	34,193,364

「たびびと会」例会報告

小原一浩（大 IN11）

ここ数年は、会場を大阪難波の「がんこ本店」に移し、正午（12：00）から「新年」と「盛夏」に開催しています。ルーツは、学生時代は部活が多忙で、麻雀を学ぶ時間がなかった仲間が、卒業後に中国語研修会（麻雀）と銘打って所属各社の保養所の拠点巡りで開催していた懇親会。

今は、台湾遠征時に世話になった横西董事長（塩野義製薬）が帰国し、世話人です。毎回、10人前後の集まりですが、藤井聡太 7 冠の出身地の瀬戸市から WVOB 会長も毎回参加して



くれます。在阪の若手ワングル OB の参加をお待ちしています。

令和 8 年 1 月 19 日
（12：00 ～）
於・大阪難波

中国語同窓会リニューアル

大阪大学名誉教授 青野繁治（大 C27・院 C12）

中国語専攻の同窓会は「鵬翼会」から「大阪大学・大阪外国語大学中国語同窓会」と名称が変更になりました。2026 年度から深尾葉子先生が会長に就任され、授業の一部で卒業生のお話を聴き取り組みも始まっています。

永野ひかるさん（大阪朝日放送）、石田耕一郎さん（朝日新聞）、長岡義博さん（ニューズウィーク日本版）が興味深いお話をされ、7 月 28 日には、小川雅美さん（パナソニック）が話されます。



会の名称変更にともないホームページもリニューアルしました。URL は、https://www.zhongwen.jp/wp です。さまざまな情報を発信していますので、ぜひご覧ください。各記事に設けられたコメント欄を交流の場としてご利用いただければ幸いです。年一回、会誌『鵬翼』を発行しています。

タイ語専攻同窓会

「白象会」総会・講演会

村上忠良（大 TV36）

白象会では毎年 11 月末～12 月初旬の週末に、大阪にて総会と講演会を開催しています。昨年（2025 年）は、11 月 23 日（日・祝）の昼に、大阪大学箕面キャンパスの大阪外国語大学記念ホールで行いました。卒業生 29 名、在学生 9 名、現教員 4 名、タイからの客員研究員 1 名、赤木攻先生・宮本マラシー先生が参加し、懇親会には来賓としてタイ王国総領事館から

パックプラパイ・カンバンルー副総領事、ジェッサダー・ティワヤーノン領事のご臨席を賜り、総勢 47 名の会でした。

下は 20 歳前後から上は 80 歳代の卒業生までが参加し、日



タイ交流の貴重な機会となりました。例年総会には、講演会も行っており、昨年は大阪外国語大学タイ語専攻卒業生（49 期、2001 年卒）で、外務省南東アジア第一課課長補佐、クメール語専門職員として活躍されている田辺（吉松）香様を講師としてお招きし、カンボジア情勢とタイとの関係についてご講演いただきました。

毎年 9 月末ごろに、ハガキと電子メールで総会・講演会のご案内を出しております。この誌面をご覧になられて、連絡が届いていない白象会の会員の方は、白象会事務局担当の村上忠良までご連絡ください（〒562-8678 箕面市船場東 3-5-10 大阪大学外国語学部タイ語専攻白象会事務局、murakami.tada.hmt@osaka-u.ac.jp）。

「アヴローラの会」2026

ロシア語学科 ロシア語専攻同窓会 村田純一（大 R27）

6 月 20 日（土）、大阪大学箕面キャンパス「大阪外国語大学記念ホール」にて、31 名（会場 22 名、オンライン 9 名）の参加者を迎え、第 31 回「アヴローラの会」総会&懇親会が開催されました。

総会は、生田美智子代表幹事の挨拶で始まり、訃報に接した同窓生を偲んで黙とうを捧げました。次に、ロシア語学科教員藤原克美氏挨拶の後、事務局からの報告、会計・監査報告が行われました。



記念講演は、溝端佐登史京都大学名誉教授（1979 年卒）より「ロシアの経済社会は戦争と制裁に強靱なのか」と題して行っていました。ロシアは、クリミア併合（2014 ～）と西側の制裁、COVID-19（2020 ～）ウクライナへの侵攻など、政治・経済的問題が続き、危機が深まっていて、それらを乗り切ることができるかというテーマでした。金融・インフレ・軍事・社会政策・経済指標など多くのデータを示しての講演で、非常に興味深いものでした。ウクライナ戦争の今後など、参加者からも活発な質問や意見が寄せられました。わかりやすく、

1 時間の講演時間が短く感じられ、講演後も活発な意見交換が続き、貴重な時間となりました。

懇親会に先立って「カチューシャ」の合唱もできました。懇親会での近況報告では、皆さんから様々な報告があり、今なお元気にご活躍されている同窓生の姿に大いに励まされました。また、ロシア語劇に関わる学生たちの参加もあり、語劇談議に花が咲きました。来年も皆さまの参加をお待ちしています。

野津修敏君を悼む

深川泰博（大 E16）

我ら大 E16 の同窓生は毎年、年末に同窓会を開いている。卒年は 1968 年で総勢 45 名だが、在校中海外留学する者もいて、同窓会の対象者は 48 名である。開催場所はいつも大阪上本町の旧学舎近くの「ホテル・アウィーナ大阪」に固定している。これは高齢になっても迷うことなく会場に到達できるため。

もう一つ。会の特徴として開始当初から、在学中お世話になった笹井常三先生をお招きしていたこと。残念ながら先生は昨年お亡くなりになったが、コロナ禍前までほぼ毎回ご参加いただいた。その間、先生の米寿のお祝いもさせていただき、皆その飾らないお人柄に惹かれ、学生時代と変わらぬ師弟の交わりに、時の経つのを忘れて歓談したことが懐かしく思い出される。

この中に、在学中、サンケイスカラシップで米国ワシントン D.C. のジョージ・ワシントン大学に留学し、我々より 1 年後に卒業、今年 7 月に急逝した野津修敏君がいる。



彼は 1944 年島根県生まれ。1969 年大阪外国語大学英語学科卒業、同年産経新聞社に入社。その後京都支局、経済部、夕刊フジ、ワシントン特派員、ニューヨーク支局長、ロンドン支局長、社長・会長秘書役、外信部編集委員兼論説委員を歴任。2001 年から公益財団法人日本美術協会「高松宮殿下記念世界文化賞」の事務局長を務め、2024 年に退任。その後一年余を「顧問」として勤務、今年から定年後の新生活をスタートした矢先の訃報である。

彼と「世界文化賞」の関わりは、1989 年ニューヨーク支局長としてロックフェラーセンターで行われた授賞式の第一回発表を取材したのが始まり。それ以来 27 年間にわたり深く携わってきた。それは彼の 56 年に及ぶサラリーマン人生の半分近くに相当し、正に彼のライフワークと言っても過言ではない。この間、100 人をを超える受賞者（絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の五部門）にインタビューする機会に恵まれた。同賞が、今や「芸術のノーベル賞」と称されるまでに発展したのも、彼の真摯かつ地道なジャーナリスト魂に負うところ大であろう。

最後に、級友からの弔句を墓前に捧げ、ご冥福をお祈りしたい。合掌 “独り逝く 酷暑に喘ぐ 友残し”

“夏空の 彼方へ旧友は 旅立ちぬ”

東北支部

黒木一吉（II E 10）

過去の自分に会える同窓会

先日テレビを見ていたら半世紀前に放送された連続ドラマ「俺たちの旅」の主演 3 人が往時を回顧、中村雅俊さん（宮城県女川町出身）が「同窓会は、過去の自分に会えるからいいんだよなあ～」と。確かにその通り。昔の自分との再会、青春時代の思い出にひたれるひととき。損得抜き、忖度なし、打算なしで交流できるのがメリット。会活動で北海道や東京、関西、四国、九州の同窓生ともつながり、視野が広がった。

僕の時代は上八校舎。東花園寮に帰る途中、上六で立ち飲み、「どて焼き」（ホルモン煮込み）がとても美味かった。値段も安かった。その頃から日本酒の味を覚えてしまった。

仙台から東北支部に改め約 10 年。コロナ禍の一時期を除いて会合を持ってきた。仙台駅前の通称「千べろ」と言われる居酒屋は、千円でもべろべろに酔えるぐらい安いお店。土日は朝から満席。空席待ちを覚悟しながらいつか支部の皆さんと行ってみたいと思う。

コロナ禍で自粛傾向の「飲み会」も回復、昨年は場所探しに奔走。やっと見つけ「まずは乾杯」。今年も開催。同窓会は、母校愛にあふれた人々の集い。とにかく人と会うことだ。お酒は何を飲むかではなく、誰と飲むかで決まる。良き出会い、再会に乾杯！

東京支部

樽井一仁（大 R23）

東京支部恒例のビアパーティを、7 月 25 日（土）16：00 ～開催しました。参加者は 44 名、29 歳～90 歳の老若男女が集まりました。外国語学部だけでなく、法・経・工・基礎工・理学部・東京外大卒業生、大阪大学元副学長の武田佐知子先生、タイベトナム語教官の五島文雄先生も参加され多士済々のメンバーでした。



会場の二松学舎大学は、外壁塗装工事を終え 13 階の食堂からは、武道館や千鳥ヶ淵が間近に見え景色は最高でした。

東京外語会の高村・富山さんは、「東京外語会有志による海外支部歴訪の旅」（今年はメキシコ）の説明・勧誘をされました。余興として、基礎工学部の川西さんが昨年のオカリナ演奏に続き、電子楽器の演奏、グリークラブ OB 有志による GAIGO WILL SHINE 他の演奏で耳を和ませました。

初参加者の感想：初めての参加でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。また次回も参加させて頂きたいと思います。（モンゴル語・2001 年卒）

長野支部

山西敏博 (院後言社8)

2019 年度から長野支部を設立し、統括しております山西敏博です。長野支部では支部長を中心に孤軍奮闘しております。

2019 年 8 月に初の「長野県支部設立記念同窓会」を中信（信州中央）地域・松本市にて開催しました。140 余名中 13 名のご参加を頂きました。以来 '20 年度（東信：上田市）では 3 名、'21 年度（北信：長野市）にて 7 名、'22 年度（南信：諏訪市）にて 4 名、そして '23 年度には再度中信：松本市にて 5 名のご参加を頂きました。5 年連続の開催でした。

2024 年度は、東信（上田市）にて 9 月に参加を募るべく、メールや電話にて何度も 50 数名に連絡しましたが、誰一人参加が叶わず、やむなく初の非開催となりました。通常は中心都市 1 カ所に固定し、そこにお越しになられた方々で行うものですが、各地域に居住される方々への利便を考慮し、幹事が県内を動き回るといふ、通常はない異例の方法で開催するも「遠いから行かない」と言われてしまいました。それではどうしようもない、という実情があります…。従いまして、2025 年度以降、しばらくは様子を見ることと相成りました。

詳細なご質問は、山西宛にご連絡下さいませ (ezm11541@nifty.ne.jp / 080-3237-0225)。咲耶会を信濃國で盛り立てることの難しさを痛感する現状です。会員の皆様もご協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

名古屋・岐阜支部

白岩 修 (大D19)

令和 7 年～令和 8 年度名古屋・岐阜支部活動状況

名古屋・岐阜支部総会を今年 6 月 13 日（土）にホテル ルプラ王山で開催しました。

24 名の老若男女の方に出席して頂きました。

新制「名古屋・岐阜支部」として、初めての総会となりました。会員の皆様には咲耶会の財政状況が非常に厳しく持続可能な運営をするために、引き続き「年会費」と「賛助金」を宜しくとのお願いをしました。

名古屋・岐阜支部の恒例でもあります、全員の自己紹介と近況報告をして頂きました。本会ではゲストスピーカーとして島敏夫氏（大 P17、1969 年卒、集合写真前列左から 4 人目）をお迎えし、「アラビア書道の世界」と題し、興味深い講演をして頂き、参加者一同大変感銘を受けました。



来年の名古屋・岐阜支部総会は令和 9 年 6 月 12 日（土）を予定しています。

当支部ではランチ会も開催しています。今後は 12 月 12 日（土）、令和 9 年 3 月 13 日（土）、9 月 11 日（土）に開催を予定しています。毎回、10 名前後の参加を得て、政治・経済問題、外交問題、趣味、家族など諸々の話題で楽しい会となっています。三重県の方も総会・ランチ会に是非ご参加ください。

これら総会並びにランチ会の告知の為に名古屋・岐阜支部メーリングリストを活用しています。メーリングリストの更なる充実に努力していきます。又、本部の協力も得て、咲耶会 Facebook、ホームページ、インスタグラムでもご案内をしています。Facebook に「いいね!」を頂けると有難いです。励みになります。

本部並びに東京支部から送られてくるいろいろな有意義な情報も会員様にご連絡しています。会員の皆様からは大変喜ばれています。ドイツ語科の方にも情報をお送りしています。

大阪大学外国語学部ホームページもご覧ください。マンズリー多文化サロンの案内等が載っています。又、会員様には会報『咲耶』の「短信欄」並びに「つどい」コーナーへの寄稿もお願いしています。

2025 年版「同窓生名簿」の購入もお願いしています。

名古屋・岐阜支部会員の皆様、これからも総会時の写真のように明るく楽しく、咲耶会を盛り上げて参りましょう！

支部長の皆さん、是非 支部だよりに寄稿してください! 必ず、支部だよりを読んだ会員様から連絡が入ります。支部の活性化に繋がります。支部同士の情報交換もしていきましょう。2 年に 1 度の支部長会議には、万難を排して集まりましょう! お会いできるのを楽しみにしています。

奈良支部

佐柄保夫 (大C26)

奈良支部はホテル花小路の 6 月例会に、北村道郎氏（大 TV11）、元外大学長の赤木 攻先生（大 TV15）をお迎えして、「タイにタイ人はいない」と題する講演会を行いました。タイの歴史はスコタイ王朝に始まるという通説は誤りである。現タイ王国の基盤は、多くの「外人」から成り、14 世紀半ばから 18 世紀半ばまで約 4 百年間続いた「アユッタヤー王朝」である。貿易で栄えたアユッタヤーには洋の東西を問わず、多様な地域から人々が集まった。貿易で莫大な資産を手にした有力「外人」が摂政、大臣、傭兵軍隊長などの要職に就き、実権を握り、政治、経済、軍事を動かした。たとえば、我々が知る山田長政（日本人傭兵隊長）は典型的「外人」の一人であり、現在でも有力家系として知られている「ブンナーク門閥」の始祖はイラン人である。つまり、タイ人の祖先ほとんどは外来の諸民族、種族であり、彼らはそのハイブリッドである。

19 世紀半ばになり、直面した西欧植民地勢力に対抗するため、バンコク王朝の優れた指導者ラーマ 4 世、5 世は「外人」を排除し、実権を国王（王族）の手に取り戻し（絶対王政）、国民国家の建設に邁進しほぼ現領域を包摂・統治し現在に至っている。タイ社会がきわめて「多様性」に満ちているのは「外人国家」であるからだ。日本社会とは対極にある社会と言える。

昼会食の中締め挨拶は、満 94 歳の辻本實元支部長（大 D 3）が司馬遼太郎の小説を引用、城山激闘後の西郷南洲が別府晋介に伝えた「晋どん、もうここでよか」を例えに近況報告があり、一同の共感を得て散会としました。



丹波支部

梅垣 誠 (大 E31)

令和 7 年 7 月 30 日に我が『丹波市』が全国のニュースに登場しました。41.2℃という日本国内の観測史上最高気温を記録したのです。記録したのは丹波市の柏原町で、まさに私の住んでいるところ。

この全国最高に色めきだったのが丹波市観光協会で、「最低のまちが最高だ! 本州一低い分水界：観測史上最高気温」というキャッチコピーを翌日にはアップ。日本で最も低い分水嶺がある丹波市で最高気温を記録したのですからいいコントラストです。そしてこのコピーの作成者は小橋君（大 P35）。

残念ながら 8 月 5 日に最高記録は群馬県の町にあっけなく更新され、五日天下となってしまいました。丹波から上洛して本能寺で信長を討った光秀は三日天下、どうも丹波の天下はあっという間に終わる運命のようです。

さて丹波市が全国の脚光をあびたまさにこの日、丹波支部の会合を開催しました。早速、日本一おめでとう! と高らかに乾杯。三柳さん（大 F53）のご主人のピエールさんは日本語教室に通ってかなり腕を上げられたので前回はもっぱら英語だった使用言語は今回は日本語とチャンポンで。

ここで日本語学習者が戸惑う日本語が話題になりました。みなさん「一二三四五」を声に出してみてください。続いて「五四三二一」も。「いちにさんしご」「ごよんさんにいち」と読まれましたか。何故ここで四の発音が違うのか説明せよ、と言われてもできませんよね。「六七八九十」「十九八七六」はどうでしょう。「ろくしちはちくじゅう」「じゅうきゅうはちななろく」（←個人差はあるでしょうけど）。これも何故違うのか説明不能です。「令和七年七月七日、七夕」の「七」の発音はどうでしょう。何故違うのか説明を求められて「こう言うからこうやねん」としかいえませんね。「三月一日は日曜日で祝日、晴

れの日です（これは日本語学習者のあいだで有名ならしいです）」の「日」の読み方も同様。



さてこの日の参加者は私、丹生さん、小橋さん、三柳さんとピエールさんの 5 名でした。酷暑のおり、ご参加ご苦勞様でした。写真を撮るのをすっかり失念してしまっており、閉会后に思い出して慌てて撮った時、丹生さん（大 E39）はすでに…、ごめんなさい。

香川支部

佐々木雅彦 (大 IP38)

2025 年度香川支部総会は 8 月 23 日（土）17 時から、高松市の「KANEMITSU CAPITAL HOTEL」（旧ルポール讃岐）で開きました。メインプログラムは、役員の若返り交代と英語落語「動物園」でした。参加 10 人（男性 9 人、女性 1 人）は 40 代から 98 歳。その 98 歳の支部長大西晏（1949 年卒 R）、幹事兼会計の森本勝幸（1967 年卒 S）、監査の黒田好子（1966 年卒 E）の 3 先輩が役員を退き、新たに支部長に川井田修さん（1983 年卒 DM）、幹事兼会計に佐々木（1990 年卒 IP）、監査に長町篤さん（2003 年卒 E）が就きました。

新旧交代のあいさつで大西先輩は戦中、陸軍幼年学校でロシア語を習ったことを振り返り、川井田さんは「この会を盛り上げ、継続させていきたい」と話しました。

英語落語を披露したのは長町さん。警察職員の傍ら「どんぐり亭しもん」の芸名で活躍するアマチュア落語家です。ただ、みなさんは英語が理解できず、後から日本語で粗筋を教えてもらって初めて笑いが! 香川にはこんな技を持つ仲間が他にもいます。2026 年度総会でも誰かに技を披露してもらおうと計画を練っています。



愛媛支部

垣生千春 (大 IP40)

11 月 15 日、愛媛支部総会を開催いたしました。人数は今年も 4 名と少ないものの、久々に県外からのご参加もあって皆様の話題が尽きず、二次会まで続く楽しい時間となりました。

支部だより



総会では支部の皆様と手軽に連絡をとる方法として LINE の活用が提案され、その場で支部の LINE グループを立ち上げました。本部から届いた情報もお届けしておりますので、興味をお持ちの方はお知らせください。

今年の支部総会では、4月17日に開催された愛媛阪大会についてもご報告させていただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2026年11月14日（土）12:00～
場所：松山市「老若男女食酒庵 茶家茶家」
会費：3,000円程度（実費）
ご連絡は10月24日（土）迄に 090-8286-8341（垣生）へ、恐れ入りますが、日中は SMS 又は留守電をご利用ください。
よろしくお願いいたします。

宮崎支部 木崎宣博（大 PB42）

宮崎支部の総会は一昨年は忘年会や他の行事と重ならないよう10月に開催しましたが、少し早いとの意見があり、昨年は11月1日（土）に開催いたしました。

今回も以前作った LINE グループを作り周知、出欠の確認をしました。この会の特徴は、老若男女の幅広い世代が集いあうこと。2時間あまりですが、それぞれが近況を語り、また、それを聞くことにより、みなさんがそれぞれの立場で社会に貢献されているなと感じ、さあ、私も明日から頑張ろう、という気持ちを起こさせてくれるところにあるのではないかと考えています。

昨年の同窓会には、写真のとおり7名の参加がありました。時を忘れて大変盛り上がりました。今年も会報『咲耶』の「支部だより」をご覧になり新しい参加者が参加されることを期待しています。また、長年咲耶会本部の幹事を務められた笹原さんから、男成さんへバトンタッチが行われました。笹原さん大変お疲れさまでした。男成さんよろしくお願いします。



令和7年11月1日開催の同窓会出席者（7名）（敬称略）
木崎宣博
杉田 亨一
男成 健一
笹原敬生
米田 健一
宮田泰雄
近藤 哲二

北京支部 氏家道登（阪大 C4）

大家好（皆さんこんにちは）！
北京支部では3ヶ月に一回程度懇親会を開催しております。先の見えない不安定な国際状況の中ですが、粘り強く現地で働く同窓生の皆さん同士の情報交換の場となっております。
さて、当地では在留邦人の人数が年々減少しており、それに伴って北京に常駐する支部員も減少、開催規模も縮小傾向にございます。留学に来られている現役生の皆さんをあわせても10名ほどでの開催となっており、少々寂しい思いをしております。そんな中でも同窓会という絆でつながっている先輩後輩がいることは大変心強いことです。50度を超える白酒で乾杯し、美味しい中華に舌鼓を打ちながら思い出話や近況報告に花を咲かせる、そんな素敵な場として続けていけたら素敵だなと思います。



懇親会は大阪外国語大学、大阪大学に縁のある方はどなたでも歓迎しており、ご家族で参加してくださる方もいらっしゃいます。支部だよりをご覧のみなさまも、北京にご赴任・ご出張の際にはぜひご連絡ください。

（連絡先 wechatID：ujijijji0624）

マニラ支部 永田梨紗（大 PH60）

2025 年末から 2026 年にかけて、マニラ支部では集まる機会に恵まれました。

12 月には待兼会との合同忘年会を開催し、年明けの 2 月には新年会を実施。そして 3 月には、少しいつもと趣向を変え、マニラから少し離れた「アラバン」で番外編を開催しました。

アラバンはマニラ中心部から車でおよそ 1 時間ほど南に位置する素敵な住宅・商業エリアです。大型ショッピングモールやオフィスビルも整備されていますが、都心部ほどの喧騒はなく、緑も多く残されています。



今回は、アラバン近辺在住のテンマタイさんお勧めのイタリアンレストランで集まりました。料理はいずれも美味しく、

当日はフィリピンの芸能人の姿も見かけるなど、人気のお店であることを実感しました。

マニラ支部の集まりには、大阪外語・阪大外国語学部の卒業生はもちろん、ご家族での参加も大歓迎です。また最近では留学生の皆さんも参加されており、フレッシュで楽しい会となっております！支部だよりをご覧の皆さまも、マニラへの出張や赴任の際には、ぜひお気軽にご連絡ください。

ハノイ支部 若山周平（大 TR49）



ベトナムの首都ハノイでは、阪大外国語学部・大阪外大・東京外大の3大学が合同で「ハノイ外語会」として活動しています。2～3カ月に1度、親睦を深める食事会をハノイ市内のレストランにて開催、メンバーの専攻語に関連したご当地レストランを順番にアレンジする「世界の味覚シリーズ」として好評実施中です。留学でベトナムに滞在している現役生の参加も歓迎しており、卒業生会員の皆さまのご理解も得ながら、学生は特別料金として気軽に参加できるようにしています。東京外大に比べると阪大外国語学部現役生の参加が少なく、咲耶会ハノイ支部長としては寂しく思っています。学生の皆さんの積極的な参加を待っています！今後はホーチミン外語会との合同セッションなども検討されています。ベトナム（ハノイ）に駐在される方、また長期出張や留学などで滞在される方は、ぜひ「ハノイ外語会」にご参加ください。

（連絡先：shu0620@gmail.com 若山）

バンコク支部 阪本法子（開発・環境大 47）

2025 年後半から 2026 年前半にかけても、タイ在住の大阪大学・大阪外国語大学の同窓生コミュニティは、これまで以上に活発な一年となりました。東京外国語大学との合同クリスマスパーティや外大戦ゴルフコンペ、関西7大学交流ゴルフコンペなど、季節ごとに多彩なイベントが開催され、初参加の方でもすぐに打ち解けられる温かい雰囲気広がっています。



2025年12月開催の東京大阪合同クリスマスパーティ

また、大阪大学を含む旧帝国大学によるゴルフコンペ「七帝戦」も年に数回行われ、他大学との新しいつながりが生まれる場としても好評です。

参加者は、大阪大学・大阪外国語大学にゆかりのある方々を中心に、学部や国籍を問わず幅広く、外国語学部、基礎工学部、工学部、法学部、経済学部など、多様なバックグラウンドを持つメンバーが集まっています。初めての方でも安心して参加でき、気軽に相談や情報交換ができる、あたたかく活気あるコミュニティです。タイに来られる際には是非覗いてみてください。皆様のご参加をお待ちしております。ご興味のある方は、osakagaidai**bk**@yahoo.co.jp にご連絡ください。

イスタンブル支部 坂本恭典（大 R40）

6月6日（土）、東京から来訪された咲耶会役員・幹事の片田さん（前イスタンブル支部長）をかこんで、支部の懇親・情報交換会を行いました。当地イスタンブル同窓生は3人と少なくなりましたが、東京外大卒を中心に当地在住の方々にも加わっていただきながら楽しく交流しています。イスタンブルはボスポラス海峡をはさんで欧州、アジア双方に位置する都市ですが、今回は欧州側のボスポラス海峡北部、もう少しで黒海が見える場所にあるレストランにて懇親会開催となりました。

イスタンブルに限らずトルコにご滞在の同窓生の方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡をお願いします。次回懇親会開催の際にお声がけさせていただきます。



支部総会・イベントのご案内

- 令和8年 東京支部総会 *対面・オンラインのハイブリッド型
日時：2026年10月18日（日）
総会・講演：15：00～17：00 大阪大学東京オフィス
懇親会：17：30～19：30 イタリアンレストラン ロイヤルガーデン
参加費用：7,000円、2008年以降卒業生5,000円予定
- 令和9年 東京支部新年会 *対面・オンラインのハイブリッド型
日時：2027年1月17日（日）予定
新春放談会：15：15～17：00 大阪大学東京オフィス
懇親会：17：30～19：30 イタリアンレストラン ロイヤルガーデン
参加費用：7,000円、2008年以降卒業生5,000円予定
- 令和9年 名古屋・岐阜支部総会のご案内
日時：令和9年6月12日（土）12：00～14：00
会場：ホテル ルプラ王山 2F 葵
会費：5,000円
- 令和8年～令和9年 名古屋・岐阜支部ランチ会のご案内
日時：令和8年12月12日（土）
令和9年3月13日（土）、9月11日（土）12：00～14：00
会場：ホテル ルプラ王山 1F 割烹 ちぐさ
会費：3,200円
- 愛媛支部総会
日時：2026年11月14日（土）12:00～
場所：松山市「老若男女食酒庵 茶家茶家」
会費：3,000円程度（実費）
連絡先：垣生携帯/SMS 090-8286-8341
申込締切：10月24日（土）

短 信

総会出欠ハガキの短信欄からの転載です

調子 肇 (IP26)

生後 96 年を同期の中島宏二氏と共に励まし合って歩を進めておりますが、他のクラスメートの消息は解っておりません。

岸田正昭 (E26)

骨髄バンク支援チャリティーコンサートその他、月1回コンサートでシャンソンを歌っています。

本多謙一 (大 E1)

箕面新キャンパス完成を見たいの希求が強いのですが、老齢には勝てず、ご盛会を祈念します。できれば年内には一度見に行きたいと思っています。

手塚 浩 (大 S1)

95 歳、まだまだ元気です。世界の平和と人類の幸せをひたすらに祈願しています。

釜谷研造 (大 E2)

毎日 30 分の散歩 (93 才です)、毎日会社へ 9 ～ 16 時出勤、各種会合へ参加、健康面毎年人間ドック、高齢者大学 7 年目です。頑張ります。

石井義人 (大 IN3)

高齢のため失礼します。皆様によりしくお伝えください。

本多様二 (大 S4)

機関誌『咲耶』の短信欄を毎号見ながら同期生がどんどん減って行くので寂しい思いです。

三宅正澄 (大 S4)

近く満 92 歳になりますが、まだ車の運転を続けております。家族からは止めるよう強く言われますが、

西 俊彦 (大 IN5)

超高齢になった卒業生には昔とは全く変わった大学の内容を知るための情報誌として感謝して拝読しています。一方、若い方々に旧時代のことを知っていただくための投稿もあるとよいかとも思います。

馬場弘行 (大 E5)

外大を 56 年に卒業して、即松下電器貿易 KK に入社、数年後、中南米に駐在員として派遣され約 10 年現地勤務しました。

中川 清 (大 S5)

「戦前大阪外語社研究会会報」第 7 号に「15 年戦争と大阪外国語学校」を掲載しました。来年度号(第 8 号)には「烈士之碑に想う」を掲載します。

井口 毅 (大 E7)

卒寿ですが、卓球、ダンス、囲碁で忙しい毎日で。

伊藤豹一郎 (大 E7)

(株)サラトのサービスは悪い。

酒井 斌 (大 F7)

同期の友人達の多くがあの世へ、「F7 同期会」もなくなって久しい。当人は至って健康。ほぼ毎週末は家内と小旅行でホテルに数日滞在。また水泳も続けている。

西勝幾雄 (大 C8)

健康維持の為、週 2 回夫婦で卓球教室に通っています。「万博」にも行って来ました。70 年前に学んだ中国語と英語で楽しんで来ました。来年には「卒寿」を迎えます。

西田達雄 (大 IN8)

大阪大学の特色を最大限活用した外国語学部の内外における幅広い教育・研究活動を大いに期待しています。

菊井忠雄 (大 E8)

昨年、米寿を迎えました。次は白寿まで頑張りたいと思っています。天気の良い日には散歩もしています。

望月敬三 (大 D8)

入学時 29 名在籍した同級生も今や 10 名を切って、寂しいことです。それに年令的に外国旅行もままならず、後はあの世への旅行を待つばかりかなあ !!

幾代雄四郎 (大 F8)

家内 (洋子) が令和 6 年に死去。毎日詐欺師から電話がかかってくる。金持 (かねもち) と誤解されているようです。

谷 昌宏 (大 IP9)

この度は「100 年史」刊行おめでとうございます。今後、咲耶会の益々のご発展を祈念いたします。

中谷昌弘 (大 E9)

目下元気にすごしています。

片岡利昭 (大 E10)

ゴルフはスコアダウンの一方で、そろそろ止めようかと思っています。

平田建之介 (大 C11)

卒業後もう 60 年余り、大阪を離れてずいぶん年が経ちました。友人たちとのやりとりもいつしか減ってしまい、余命を数えるばかりです。あと 10 年、みんな永らえてほしいのですが！

村岡 穆 (大 C11)

山歩きとテニスは 5 年前に卒業。今は 1 日 5000 歩のウォーキングを続けています。

小原一浩 (大 IN11)

IN 語同窓会の会報「南十字星」の発行に協力しています。咲耶会の益々のご発展を祈念しています。

中本 登 (大 IP11)

皆様お元気ですか。小職もおかげ様で元気です。

佐田公英 (大 C12)

間も無く 85 才になりますが、「毎週末は星期日 (毎日が日曜日)」状態で過ごして居ります。

内原正司 (大 IN12)

毎日、元気にすごしています。

横谷俊一 (大 IP12)

現役のキリスト教牧師をしています。

安東英明 (大 D12)

現在、写真ライフの日々で、カメラを担いで撮影に出かけ、帰宅後は作品編集です。Goo 終了に伴い、はてなブログへ移行、anchanh2's diary でブログ継続中です。他には月 2 回のハイキングで健康維持に努めています。

萩原準子 (大 S12)

「短信」欄の 1 ページ目の前半までわが名が進んで来ていることに気づき、ガックリ! 年を取った・・・。外大で英語以外の言葉を学んで視野が広がった。異なる文化、人々、世界を知る喜びは AI 翻訳機では味わえないだろう。

倉西 修 (大 C13)

同期生 6 名が 9 月初め北京の新僑飯店で同期会を持ち、久しぶりの北京観光旅行を楽しみました。

竹下晃治 (大 C13)

卒業して 60 年が経った 2025 年の秋、大 C13 の同期生 6 人が北京に集いました。丁度、抗日戦争勝利 80 周年の 9 月 3 日に新僑飯店で外出禁止に遭いました。

橋本 勝 (大 M13 名誉教授)

母校開催、学術シンポジウム「モンゴルの言語と文化の関係性の問題」(昨年 11 月)に参加し発表。「ニューエクスプレスプラスモンゴル語 (音声 DL 版)」(白水社) 本年 7 月刊行しました。大阪・関西万博

を家族と訪れモンゴルバビリオン展示室に立寄りました。何とか元気にしております。

宮田泰雄 (大 P13)

若いころは、後続世代に「錆つくより擦り切れる方がよろしい Better wear away than rust away」と叱咤激励していましたが、この歳になると「擦り切れぬよう、錆つかぬよう Neither wear away nor rust away」と心得て、適度に身体を動かしています。

島川義輝 (大 S13)

現在 83 才ですが、幸い病氣もせず元気に生活しております。月に 3 回ゴルフを楽しんでいます。

細 英機 (大 S13)

元気にしております。が、加齢により交友もデンワだけに寂しい。

井上久生 (大 IN14)

「みつごの魂、100 まで!」インドネシアの歌の会で仲間と歌っていますヨ !!!

江尻成泰 (大 E14)

2011 年「いろは文字鑑 (くさり)」出版 (海風社)「万葉考房」を検索→梅花万葉集友の会→小生の「いろは文字鑑 (くさり)」をご覧ください。

木本泰臣 (大 D14)

元気です。

松永秀夫 (大 D14)

何とか元気で、庭仕事、畑、プール、健康麻雀で過しています。

岩本洋之 (大 C15)

日本インドネシア友好協会奈良 (設立 1988 年)にて 37 年にわたり、インドネシア人との交流を続けてきました。多くの留学生の支援を行っています。

藪 一郎 (大 B15 名誉教授)

体力保持のためウォーキングとラジオ体操、ボケ防止のため外国語学習 (緬・英・仏語) と新聞読みに励んでおります。

佐々木康治 (大 E15)

大 E15 の同窓会を毎年開催。旧友との談笑は至福のひと時です。80 才で富士、北岳に登頂。意外性を求めて国内外の旅を継続中。

松木 博 (大 E15)

ボランティアガイドをしながら 80 歳を迎えました。

村山久二子 (大 E15)

いつもお世話ありがとうございます。若い方が沢山増えますますます活発になりますように。

大西秀雄 (大 E16)

退職後も元気に過しております。

阪本喜代松 (大 S16)

何とか元気にしています。皆さんによりしくお伝え下さい。

戸倉光明 (大 IP17)

年を経るにつれて、仲間が旅立ちます。「先に逝って良い処をみつめてほしい」と願っています。今年初め北京観光旅行を楽しみました。元合気道部。

山下輝夫 (大 TV17)

元気にこれからも過したいです。

中川裕二 (大 S17)

いつもお世話になります。今年 80 才を迎えますまず健康で母校との関わりを持てていることに感謝しています。外国語学部が阪大でも存在感のある学部になるよう皆様の益々の活躍を期待致します。

半田康彦 (大 P18)

企業を定年退職後、長年企業人として培った経験や知識を活かして都内地方自治体の消費生活相談員として様々なトラブル解決に携わる傍ら、江戸名所図会をもとに江戸東京歴史散歩の街歩きを楽しんでいます。

春名 肇 (大 C19)

6 月心臓冠動脈に閉塞 3 か所。10 月 2 回のカテーテル手術予定。何の自覚症状もなく、至って元気なのですが。日中友好協会参加してます。

船戸誠一郎 (大 E19)

令和 6 年 11 月 7 日 (木) 昼、淀屋橋のガスビル 8 階で、戦中戦後 10 年間、本町のあの伊藤萬の電話交換手だった母 (旧姓山岡) も食べた (?) 名物ギリシャ料理ムーサカ賞味。夜、阪大 3 階入口右向いの文化芸術劇場で、キークバレー団の「白鳥」「くるみ割り」「美女」名場面集を鑑賞。

山口弘務 (大 E19)

定年後に持ち上げた「七草書房」から本年、小説『ひなた : ガン爺の雑記帳から』(美山弘樹著) を出版しました。

白岩 修 (大 D19)

咲耶会名古屋・岐阜支部長をしています。咲耶会年会費・賛助金をお願い致します。ジム、健康麻雀、テニス、カラオケ、男の料理教室等を楽しんでいます。たまの飲み会も楽しみです。皆さん、明るく元気に長生きしましょう！

神崎康彦 (大 F19)

それなりの生活です。

木下育夫 (大 S19)

喜寿を迎え、30 年余学び続けたNHK ラジオのビジネス英語についに止めることに。大谷翔平君の活躍に励まされながら富山の片田舎で気儘なのんびり生活を楽しんでいます。毎週土曜日朝オンライン合気体操の会に参加して先輩・後輩方と交流しています。

諏訪忠泰 (大 S19)

クラシックギターの合奏活動を地元で 8 年間続け、ふと気がつく健康寿命を越えて 5 年。あと 3 年で平均寿命の年令。終活の必要性を実感し、先ずはお墓の永代供養に着手したものの、なかなか前に進まず焦っています (苦笑)。

辻野六郎 (大 C20)

大学在学は 1960 年代後半でしたが、当時は学生運動が盛んでしたが、今の学生は ??

服部健治 (大 C20)

2025 年 9 月 1 日より一般社団法人日中協会の理事長に再任されました。現在の呉江浩中国大使とは 1980 年代 5 年間日中経済協会北京事務所で机を並べて仕事をしました。

原田幸次 (大 IP20)

定年退職後、17 年で喜寿となりました。海外とは縁のない生活となりましたが、街中でインド人、パキスタン人に問われ、ヒンディ、ウルドゥで答えるたびびっくりされます。生涯現役で月半分のパート、趣味の俳句、絵、庭いじりで過しています。新キャンパスに感激しました。

松浦弘司 (大 DM20)

卒業後、新聞記者 3.5 年、教員 13 年、教委 8 年、校長 11 年 (うちベルギー日本人学校長 3 年)、波乱万丈の人生でした。悔い、大いに有。しかし、間もなく終了です、ホッ！

村中敏則 (大 S20) 明美 (大 S21)

2 人共おかげさまで、まずまず元気に老人ホームライフです。敏則はよく笑顔を見せてくれて、うれしいです。

阿部博司 (大 M21)

モンゴル語同窓会「朔風会」の役員をしています。

崎山 誠 (大 TV21)

大先輩の作家、庄野潤三。学生時代から愛読。特に「流木」など初期の短編が好き。これからも読み続けたい。司馬遼太郎、陳舜臣だけじゃないよ。

石黒伸幸 (大 IN22)

ジムにサッカー観戦と元気に過ごしています。

南 信夫 (大 B22)

今や在留ミャンマー人は 13 万人を越えた。埼玉県の東松山に悟り寺を建設。今年バゴダの落慶式を盛大に行った。彼らの仏教への帰依は日本人の想像を遥かに超える。

藤田 明 (大 F22)

25 年 8 月にカトリック市川教会の日曜ミサに黒人女性が来られました。彼女はコンゴ民主共和国大使館の大使の秘書をしているそうです。万博や TICAD にも参加したとのこと、彼女のフランス語は正確で早口です。これから毎週お話し出来るので楽しみです。

幸田正章 (大 R22)

内向きにしか目が向かない自民党の党内抗争。どっちを向いて仕事をしているの? とぼやく日々です。

川口 洋 (大 C23)

10 年前に完全引退し、趣味三昧の楽しく充実した日々を送っております。

村田隆禪 (吉田正則) (大 C23)

令和 7 年正月、旧外大跡の国際交流センターにて同窓会には多数参加にありがたく、生きている内に誰かまた幹事してね。

樋口正次 (大 E23)

大阪市天王寺区にあります興国高等学校で進学顧問をしています。大阪教育大学附属高校池田校舎を定年退職してから 13 年目になります。

吉田雅美 (大 R23)

造船会社を完全卒業して 11 年。露語は入社 1 年目に辞書を引き引き契約書を読んで以降全く縁がなく、ほぼ忘却の彼方。今は週 5-6 日の卓球が仕事兼専攻となっています。

日比 隆 (大 P25)

マレーシアでローカルの友人の会社を手伝っています。駐在員の時代とは違った苦勞を楽しんでいます。

服部弘義 (大 E25)

家庭教師の後釜を快く引き受けてもらった方が、3 回生の時、外交官試験に合格したので外大やめるといわれびっくり。50 年後、会報でその後の御活躍を知り、またびっくり。

味岡保雄 (大 E27)

毎回、会報を楽しく拝見しております。現在、神戸親和大学で週 2 回、非常勤講師をしています。来年度 (2026 年) は、仕事も引退し、趣味に専念したいと思っています。

堀内宗隆 (大 C28)

2025 年 10 月 6 日ノーベル生理学・医学賞受賞の坂口先生曰く「一つの事をずっと続けていく大切さ」に響く言葉です。日本の医学を信じながら“体力増強”と毎月箱根ガイドで外国人客に日本を紹介し続けます。

横山博史 (大 A28)

2024 年 11 月に 11 年ぶりにパリへ行きました。コロナもあり久しぶりでしたが、シャンゼリゼの夜景、マルモッタン美術館、ジュノンソー城 (ロワール) など大変良かったです。

稲村 (加藤) 洋 (大 P28)

毎年「花園五人衆」という名で、花園寮仲間 で再会を楽しんでいます。今年は 12 月 13 日、上八校舎跡地の国際交流センター泊で近鉄沿線の散策を楽しみたいと思います。'Gaigo will shine tonight!'

川村優理 (大 TV29)

登録有形文化財「藤岡家住宅」館長を務めています。

木本絹子 (大 IP30)

咲耶会の今後の益々の発展を祈念しております。

圓山 望 (大 IP30)

栗生間谷キャンパスへ冬でもホンダタクトで通学していましたが、今は防寒下着を着用して本堂で正信偈 (しょうしんげ) のお勤めをする寒がり住職です。

市川 浩 (大 R30)

2023 年 3 月末、34 年弱勤めた広島大学を退職。生まれ育った京都に戻り、いくつかの大学で非常勤講師を勤めております。

森 裕賀 (大 A32)

キャリアコンサルタントとして充実の日々を送っています。大学生の皆さんと話していると勉強になります。

中路 亨 (大 E32)

20 歳の時、想像もしなかった 60 歳を越えた自分が。持病、親の介護、知人の他界。

中原寿朗 (大 TV33)

2025 年 6 月に孫が生まれました。

青木 (盛島) 由香 (大 F33)

1985 年に大学を卒業して 40 年が経ち、新キャンパスでの総会、出席を楽しみにしてましたが、あいにくフラダンス出演と重なり、断念。フラダンスを始めて 20 年、フラワーアレンジメントを教え始めて 10 年の節目を迎え、2025 年は大阪・関西万博、阪神タイガース優勝、ノーベル賞受賞…と関西、京阪神間にとって嬉しい年になりましたね！

佐川善久 (大 F33)

彩都方面には頻繁に出かけています。勝尾寺は外国人観光客でにぎわっています。

橋本優子 (大 R33)

定年退職後、再任用となり 2 年半が過ぎました。元気に働いています。

関戸 (寺田) 三紀子 (大 PB34)

機会があれば同窓会したいですね。

島田郁子 (大 A35)

会誌ありがとうございます。なかなか同期の方の動向が分からず、少しさびしい気もしています。高知県でのくらしも気がつけば 17 年、おどろいています。

高木秀樹 (大 C36)

万博でかなりにぎわっている様子。粉モンが飛びかっとるんですね。会が盛大となりますよう。

藤野富美 (大 F37)

定年まであと 1 年半となりました。英語と中国語は仕事で使いますが、フランス語はたまに記事や財務諸表を読む程度で衰えています。

中西勝弘 (大 IP40)

地元・滋賀県での高校勤務も 33 年目になりました。娘も、阪大外国語学部でドイツ語を学んでいます。「一日一笑」「一生勉強」「一生青春」で前進あるのみです。

徳丸明子 (大 K41)

そろそろ老後のことを考えるようになりました。

下辻 学 (大 M42)

三重県志摩市にセルフビルドで小さなログハウス風的小屋というか家を建て住んでいます。趣味の無線とカントリーライフを楽しんでいます。

山田 (田中) 敦子 (大 PB42)

外大の後輩とのご縁でインターナショナル保育園で楽しく働いています。趣味でボサノヴァギター弾き語りも続けています。

井奥 (若野) 美和 (大 R42)

事故にあって足が不自由になり、自宅で毎日過ごしています。

岸 (橘) 智佳子 (大 D43)

なつかしく会報読ませていただいています。

並川嘉文 (大 C47 院前日本 7)

2026 年の堀川ツアーはタイに行きました。2027 年はインドネシアの予定です。ツアー受け入れ可能な方は連絡下さい。

長谷川宣子 (中南米大 S47)

50 歳になる今年、デザイナーに転身します。言語から非言語への挑戦、頑張ります。お仕事のご依頼をお待ちしています。

前田 (秋山) 瑞枝 (言語大 48)

万博での在校生の皆さんの活躍に刺激を受けました。またとないチャンスを生かされていますね。インドネシア館には 2 回行きましたが、もっと行ってあげれば良かった！

中村光恵 (ロシア・東欧 大 R48)

ロシア語と英語の学びを続けています。言葉は「世界への窓である」。平和を心から願います。

大桑京子 (東アジア大 M50)

10/13 まで万博で働いていました。多忙だったので今はゆっくりしています。

中嶋 (吉原) めぐみ (北米大 E50)

仕事と子育ての両立を毎日頑張っています！

上遠野 雄 (中東大 TR51)

在学中も卒業後も大変お世話になった藤家洋昭先生のご逝去の報を耳にして以降、先生へのせめてもの恩返しの意味を込め、トルコ語の学習を 20 年以上ぶりに再開し、2025 年にはトルコ再訪も果たしました。ライフワークとして地道に学習を続けていこうと思っています。

岡本憲司 (中・北欧大 E52)

現在 45 才、中高一貫校にて英語教員をしています。元気で。母より。

小川海歩子 (国際関係大 55)

銀閣寺近くの「浄土複合」ライティングスクールで学び始めました。

大汐健太 (北米大 E55)

世界各地に根ざす同窓会活動に感謝するとともに、微力ながら今後も支援させていただきます。今は東京多摩地方で時々尖りながら生きてます。

山田龍一 (東アジア大 K58)

卒業から 16 年経った今、大学で学んだ言語やスキルが仕事で活かされています。感謝。

片山夏紀 (アフリカ大 SH59)

4 月から山梨県都留文科大学に着任し、アフリカや世界の戦争や平和について講義しています。

指山 (東) 瞳 (阪大 H2)

先生方、同期の皆、先輩・後輩方、お元氣にされていますか。短信初めて投稿します。今、第 2 子の産休中で間もなく出産予定です。夫 (文学部出身) と 3 歳半のおてんば娘と楽しく暮らしています。

笠嶋祐志 (阪大 E2)

昨年、英語の問題集を制作する会社に転職しました。やりがいがあります。

有年孝将 (阪大 U3)

今年開業して弁護士兼税理士事務所を持つことになりました。ワクワクがとまりません！

興水 凜 (阪大 C7)

2025 年 7 月より文部科学省で勤務しています。

齊藤涼花 (阪大 C8)

昨年度グランドスタッフから業務部安全・保安グループへ異動になりました。日々現場とはまた異なった目線で仕事に向かっています。

武永優汰 (阪大 D13)

今後も後輩や院進した同級生の卒業を祝うため、毎年大阪城ホールに赴く予定です。自分の卒業後も母校との縁が続いており、嬉しい限りです。

佐竹節寛 (短 S2)

運転免許を自主返納して以来買物は専ら自転車利用です。不便ですが、運動不足を補う為毎日頑張っています。

峯松 (大河内) 圭子 (比較文化夜 30)

今秋、勤め先の中国現地法人の研修施設視察のアテンドとして、数年ぶりに蘇州を訪問してきました。皆様のご活躍をお祈りしております。

富永真己 (中・北欧夜 E30)

年々体力がなくなっている中、皆様の短信欄を拝見し、60 才までは色々と挑戦しなければと改めて思いました。

森本 智 (南欧夜 F31)

仏語会話クラブの皆様へ、お元氣に活躍中と存じます。最近の世界情勢は大国の利益優先と独裁が中・小途上国を圧迫しており、改善するよう主張しましょう。

横山輝子 (中・北欧夜 E37)

万博での皆様のご活躍、すばらしい機会だと思います。ゆっくり海外の方々と交流したかったです。1 度しか行けませんでした。

堤 真佐美 (中・北欧夜 E39)

週一回韓国語の勉強をしています。外国語はやはり難しいです。海外旅行も最近はアジアが多いです。

井上洋治 (II F1)

外大 (II 部) を卒業して早や 50 有余年、昼間の府庁の仕事を経て 65 歳。その後、また仏語の魅力にひかれて NHK 文化センターに通って、10 年あまり。NHK の仏語のクラスが閉講になり、NHK の講師に ZOOM で個人レッスンを受け続け、25 年 2 月で卒業。しかし、仏語の魅力は忘れがたく、最低限仏語に触れたいと思い、NHK 仏語ラジオ講座を聞いています。私には仏語の本当の卒業はないでしょう。

野村信二 (II E2)

皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

短 信

32

大場百合（Ⅱ R2）
我が世誰ぞ常ならむ！昨年 53 年連れ添った夫を見送り、共に乗り合わせてきた電車を降り、これから夫と一緒に新たな旅に出て、人生の修行をしっかりと積んでいくつもりです。現在、心の安泰を得て、毎日、心豊かに暮らしています。

小泉賢一郎（Ⅱ E6）
2025 年 3 月まで非常勤講師をしていました。現在は孫 2 人の保育所への送迎で忙しくしています。

黒木一吉（Ⅱ E10）
偉大な卒業生とは卒業後も母校を愛する人のこと。そんな人であり続けたいと思います。

近藤哲二（Ⅱ S10）
現在、ライフワークとしての日本語教師に挑戦中です！

吾妻 哲（Ⅱ D11）
EXPO2025 の開幕日、大屋根リングの上で「1 万人の第九」に参加できました。隣は東京からの大学生、後ろは熊本の高校生たちに囲まれて歌い、いい思い出となりました。

中津川伸一（Ⅱ R11）
同期入学の方（語学は異なる）が会報の短信で書かれていたように、私にとっても外大Ⅱ部で学べたことはその後の人生において大きな財産となりました。

酒井良夫（Ⅱ E14）
会報懐かしく拝見しています。還暦もとくに過ぎて、真面の寮で暮した日々が夢のようです。

近藤孝一（Ⅱ S17）
よくⅡ部があったことです。外大バスの帰りは、バス人でいっぱいでした。なつかしいです。

田坂雅弘（Ⅱ F19）
週 1 回の NGO でのボランティア、中学の数学のサポート、趣味のバードウォッチングなど、元気に過しています。いつかインドネシアを訪れたいです。

西澤司郎（Ⅱ F20）
フランス語科Ⅱ部に 10 年間お世話になりました。現在、86 才です。

森田文枝（Ⅱ S23）
地元農畜産物で作るスペイン料理講座のサポートをする機会がありました。郷土料理とスペイン料理のコラボに舌つつみ。ブランド豚肉矢元豚のソロミージョマンサナソース美味しかったです。

河北隆一（Ⅱ F29）
「明日に架ける橋」ピアノ演奏できます。

阿部直子（院 IN7）
週 1 回の NGO でのボランティア、中学の数学のサポート、趣味のバードウォッチングなど、元気に過しています。いつかインドネシアを訪れたいです。

香田龍太郎（院前 ロシア・東欧 13）
Wikipedia の人物に関する記事をよく読んで、人には様々な生き様があるのだと思っています。

物故者

令和7年7月から令和8年6月までに連絡いただき、確認がとれた方々のお名前を掲載いたしました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

語 科	氏 名	語 科	氏 名
名誉教授	好田 實	大 E20	阿部周治
名誉教授	巢山靖司	大 E42	塚本幸枝
名誉教授	東 泰介	大 D9	大西 宏
名誉教授	三原健一	大 D19	丸山珪一
旧教員	宿 玉堂	大 F4	竹中清蔵
旧教員	吉田金彦	大 F6	武田富男
C23	山脇芳三郎	大 F7	田舎 豊
大 C4	林 治郎	大 F7	川口洋介
大 C7	平野拓也	大 F9	中橋千秋
大 C11	青木俊一郎	S27	西村貞夫
大 C21	名和又介	大 S9	宇野滋夫
大 K38	平野賢司	大 S13	園田英徳
Ⅰ N21	東郷芳温	大 S32	平山正浩
大 Ⅰ N6	寺嶋正直	R24	瀬藤一郎
大 Ⅰ N7	覚田 滋	大 R9	山口一光
大 Ⅰ N10	坂本重夫	大 R12	安随俊昌
大 Ⅰ N11	大田中 実	大 R12	澤田軍治郎
大 Ⅰ N17	梶江靖史	大 R12	藤本和貴夫
I P25	松永通温	短 E1	林 昌也
I P27	竹内玉蔵	短 E1	廣瀬徹也
大 I P43	西明義和	短 S2	観月浩慈
大 E1	西田重造	Ⅱ C4	宮崎公子
大 E6	鳥生 弘	Ⅱ E12	熊野誠治
大 E12	武藤禎雄	Ⅱ E14	北川明人
大 E13	田川成士	Ⅱ R13	中橋源一
大 E15	穂積健次	院 D27	吉澤早苗



年会費支払者・賛助金寄付者一覧

大 C3 山内美恵子
大 C5 村上利雄
大 C6 小松哲夫
大 C7 加藤多嘉志
大 C7 難波(高瀬)洋子
大 C8 山田敏三
大 C9 片本善清
大 C9 岡本(高田)篤子
大 C9 平岡 豊
大 C10 石田敏夫
大 C10 加来洋二郎
大 C11 青木俊一郎
大 C11 平田建之介
大 C11 村岡 穆
大 C12 前田(尾形)潤子
大 C12 片桐淳二
大 C12 斎藤彰一
大 C12 玉山(西田)順彦
大 C13 樹下嘉之
大 C13 倉西 修
大 C13 児玉範愨
大 C13 坂野勝彦
大 C13 住山 毅
大 C13 竹下晃治
大 C13 松井正雄
大 C14 東浦正重
大 C15 吉村(池田)澄代
大 C15 森本(石川)美佐子
大 C15 伊藤彰一
大 C15 岩本洋之
大 C15 大水 勇
大 C15 守屋 求
大 C15 若林道朗
大 C16 大数二郎
大 C16 河田悌一
大 C16 中士浩治
大 C16 若菜大樹
大 C17 西脇義彦
大 C17 野口忠夫
大 C17 山本恒人
大 C18 浅田隆司
大 C18 井上尚弘
大 C18 田中英二
大 C19 春名 肇
大 C20 荻田俊雄
大 C20 小林和能
大 C20 辻野六郎
大 C20 服部健治
大 C21 名和又介
大 C22 内野 勉
大 C22 呂(王)英成
大 C22 北畑(山本)千晶
大 C23 朝倉潤真
大 C23 村田(吉田)隆禪
大 C24 小野善史
大 C24 岡田(塩野)光子
大 C24 仲畑尚敏
大 C24 福富奈津子
大 C25 徳永敏夫
大 C25 西川孝次
大 C26 佐柄保夫
大 C26 井上(松林)由喜子
大 C27 岸(魚谷)昌代
大 C27 繁本孝一
大 C28 井上俊二
大 C28 堀内宗隆
大 C28 村本幸久
大 C28 雪原(李)一人
大 C29 津森(飯塚)住子
大 C29 平松康弘
大 C31 井上(高橋)順子
大 C32 岸本あかね
大 C33 杉尾広志
大 C33 藤森洋一
大 C33 横井陽明
大 C33 渡部一雄
大 C34 鶴澤(遠藤)由紀子
大 C34 竹中俊穂
大 C34 濱田麻里
大 C35 二河(井上)ゆかり
大 C35 満原(上野)逸子
大 C35 小川雅美
大 C35 池端(鹿角)智美
大 C35 多門美穂
大 C35 西邑一美
大 C35 妙本和也
大 C36 熊谷(小野)晃子
大 C36 加藤敬介
大 C36 澤島英隆
大 C36 平野拓也

大 C37 佐藤(大野)みのり
大 C37 河本高枝
大 C37 中尾(木村)知子
大 C37 濱田久美
大 C38 今田憲男
大 C39 池山良太郎
大 C39 林(後藤)利夏
大 C39 長岡義博
大 C39 棚田(原田)由紀子
大 C40 浦川尚之
大 C40 島村(河野)多鶴子
大 C40 藤田法子
大 C40 神田(牧川)友美
大 C41 大坪敦司
大 C42 奥村(河合)淑恵
大 C44 荻野好雄
大 C45 千田(伊東)理恵子
大 K17 瀬古邦子
大 K19 浦嶋義則
大 K19 王 寛一
大 K21 畑山康幸
大 K23 芦田 進
大 K24 三村浩一
大 K25 渡部宏文
大 K27 河上淳一
大 K27 竹鼻 毅
大 K27 松本 哲
大 K29 上田景男
大 K30 任 喜久子
大 K31 向頭達夫
大 K33 栗生(勝本)昇
大 K34 田原和雄
大 K35 石走(佐々木)裕子
大 K36 三枝喜子
大 K37 星野一路
大 K38 森川広真
大 K40 山根泰延
大 K41 角(大味)智子
大 K41 徳丸明子
大 K43 成瀬(乾)由香
大 K43 梶間貴志
大 M9 中元寺俊幸
大 M11 小貫(野間)千鶴子
大 M13 橋本 勝
大 M14 神徳昭甫
大 M15 山田(森下)宏子
大 M16 三村(正田)サカエ
大 M17 東村孝郎
大 M18 戸川 浩
大 M21 阿部博司
大 M21 吉本幸吉
大 M28 伊藤道彦
大 M29 鈴木麻里子
大 M31 片岡(岡田)るみ
大 M31 奥田麻美子
大 M31 田中信一
大 M35 大崎 恵
大 M44 岩田友一朗
大 IN3 石井義人
大 IN4 島崎忠彦
大 IN5 西(塚口)俊彦
大 IN5 吉村英男
大 IN5 渡部 徹
大 IN7 小黑 一
大 IN8 滝本佳一
大 IN8 西田達雄
大 IN10 石川恵二
大 IN10 才木友昭
大 IN10 高野郁男
大 IN10 松木 優
大 IN11 大田中 実
大 IN11 小原一浩
大 IN11 中川昌衛
大 IN12 内原正司
大 IN12 澤井佳一
大 IN13 宮崎衛夫
大 IN13 森岡義典
大 IN14 沖 政夫
大 IN14 鈴木安夫
大 IN15 朝倉俊雄
大 IN16 広瀬(山田)加代子
大 IN17 本田正伸
大 IN19 野崎淳一
大 IN19 山崎 訓
大 IN20 佐伯 孝
大 IN21 小田敏治
大 IN22 石黒伸幸

大 Ⅰ N22 阿部(宇坪)直子
大 Ⅰ N23 石丸誠一
大 Ⅰ N23 辻本雅洋
大 Ⅰ N23 丹羽慎吾
大 Ⅰ N24 廣澤義幸
大 Ⅰ N25 大角幸彦
大 Ⅰ N26 中村由実
大 Ⅰ N27 安藤律男
大 Ⅰ N27 大野 泉
大 Ⅰ N27 須田(坂元)和
大 Ⅰ N27 竹田啓治
大 Ⅰ N28 片山信英
大 Ⅰ N28 松本(西村)雅子
大 Ⅰ N29 下野正一
大 Ⅰ N29 道幸静児
大 Ⅰ N29 南野忠之
大 Ⅰ N30 北野 忍
大 Ⅰ N30 藤本知之
大 Ⅰ N32 砂取敬介
大 Ⅰ N32 齋田譲治
大 Ⅰ N34 墨 史朗
大 Ⅰ N36 矢島正志
大 Ⅰ N38 沢地一夫
大 Ⅰ N41 土屋裕美子
大 Ⅰ N42 竹前(小林)望美
大 Ⅰ N42 岡田(森)真理
大 Ⅰ N44 三隅理恵
大 Ⅰ N45 武田(平松)祐子
大 Ⅰ N45 奥稻雅哉
I P26 調子 肇
I P26 中島宏二
I P27 奥村義寛
大 I P3 小林富蔵
大 I P6 炭谷陽吉
大 I P8 藤本清志
大 I P8 増田次郎
大 I P9 谷 昌宏
大 I P10 大西章文
大 I P10 大根瑞穂
大 I P10 久保泰三
大 I P10 濱口(東岡)恒夫
大 I P11 大湊幹郎
大 I P11 前田真一
大 I P11 中本 登
大 I P12 中村長生
大 I P13 奥平龍二
大 I P13 坂口嘉一
大 I P13 中村佳永
大 I P13 日比敏夫
大 I P13 溝上富夫
大 I P14 坂口捷男
大 I P15 竹内俊一
大 I P15 別所宏昭
大 I P16 稲岡俊一
大 I P17 戸倉光明
大 I P17 山脇弘栄
大 I P18 中川(谷)みさほ
大 I P20 原田幸次
大 I P20 横山節夫
大 I P21 大野 裕
大 I P22 小野俊一
大 I P22 服部正喜
大 I P25 笹山喜市
大 I P26 瀧野真咲
大 I P27 白水和憲
大 I P27 神野(杉野)弘美
大 I P27 堤 昌昭
大 I P28 神田(饗庭)良江
大 I P28 中村(久保)美由紀
大 I P28 竹村(鈴木)康子
大 I P28 新井(沼井)君子
大 I P29 永谷 勉
大 I P29 向井多々良
大 I P30 木本(鈴木)絹子
大 I P30 中道淳一
大 I P30 圓山 望
大 I P31 豊田(小田)美津子
大 I P31 三木雄一郎
大 I P34 桑林浩治
大 I P34 辻 裕紀夫
大 I P34 中江加津彦
大 I P35 瀬理なお
大 I P36 桐生(細川)正弘
大 I P37 大石(橋本)なつ美
大 I P38 佐々木雅彦
大 I P38 原田(岩根)明美
大 I P38 上床真弓
大 I P38 高尾 誠
大 I P38 山中(辻)博弥
大 I P38 高尾(藤林)節子

大 I P40 前田健二
大 I P40 薄墨(属)律子
大 I P40 中西勝弘
大 I P41 西村昌也
大 I P42 池田(伊藤)由佳
大 I P44 山本(植野)幸代
大 TV11 西沢毅彦
大 TV15 奥田(猪田)紘子
大 TV15 請田裕史
大 TV17 土森道雄
大 TV17 敷 庄治郎
大 TV17 山下輝夫
大 TV18 田口 進
大 TV21 崎山 誠
大 TV22 西村朋也
大 TV24 川村芳範
大 TV28 西村俊一
大 TV29 川村優理
大 TV29 大木 守
大 TV30 磯部英美
大 TV30 田中美穂子
大 TV31 内山博貴
大 TV33 義若(大野)麗子
大 TV33 田島啓行
大 TV33 村岡貴子
大 TV34 長田義行
大 TV34 西尾全司
大 TV36 寺田(本多)美貴子
大 TV36 安井久子
大 TV36 川村隆一朗
大 TV37 廣島輝夫
大 TV40 中本(竹内)恵
大 TV40 新免輝夫
大 TV42 佐藤智子
大 TV43 福岡秀一
大 TV44 岡松由理香
大 B2 和田 達
大 B8 石堂知宏
大 B8 小坂寿幸
大 B8 藤原史和
大 B12 塚本(資延)泰子
大 B15 大重昭子
大 B15 前田義隆
大 B15 敷 司郎
大 B18 南田(井上)みどり
大 B18 森 修三
大 B19 田中茂明
大 B22 高城 豊
大 B22 南 信夫
大 B24 勝原尚実
大 B25 中川晴吉
大 B32 田中 聡
大 B34 牧野勇人
大 B34 山本(山本)和子
大 B36 小山 淳
大 B36 本田頼子
大 B37 澤下くる美
大 B38 倉本和寛
大 B38 野口千恵
大 B40 秋山達也
大 B40 前川(坂口)正子
大 B40 植草(竹村)美香
大 B43 岩崎洋一
大 A10 森野欣一
大 A10 妹背捷二
大 A15 吉崎史明
大 A17 篠崎由紀子
大 A19 高階美行
大 A20 石田(大西)明子
大 A21 古角末廣
大 A21 野中正晴
大 A27 野口勝久
大 A28 後藤(木村)泉
大 A28 松原 浩
大 A28 横山博史
大 A29 田中(山崎)久美子
大 A32 安部寛之
大 A32 LEROUX(後藤)尚美
大 A32 EMRE(武田)佐喜子
大 A32 森 裕賀
大 A33 安井弘之
大 A34 川口(一番ヶ瀬)洋子
大 A34 小森淳子
大 A34 廣瀬陽一郎
大 A35 八木(櫻井)裕子
大 A35 桐山(高木)美緒里
大 A36 加藤竜也
大 A37 野間(榎本)了子
大 A37 田中喜博
大 A37 武藤宏幾

大 A38 河田ふじ
大 A39 谷田川(般若)優子
大 A41 小泉知弘
大 A42 磯田(阪口)真理
大 A42 田中(田中)久美
大 A43 菅野 好
大 A43 森 博美
大 A44 松本(津村)暢子
大 P13 高濱 昭
大 P13 宮田泰雄
大 P14 岸川 登
大 P15 大島俊彦
大 P15 春木孝宣
大 P16 香川英明
大 P18 半田康彦
大 P20 長塚 匠
大 P22 石田義博
大 P22 泉 四郎
大 P22 高橋和夫
大 P23 田伏辰夫
大 P24 竹之下勇美
大 P25 日比 隆
大 P26 宮原武文
大 P28 稲村(加藤)洋
大 P30 成実幸彦
大 P33 野垣(清松)和美
大 P36 宮城(坂本)展子
大 P39 西冲(下代)直美
大 P41 山川 静
大 P42 高橋(貞利)厚江
大 P44 平尾祐美
大 P44 栗田尚子
E26 岸田正昭
大 E1 東條(太田)喜代子
大 E1 正保富三
大 E1 玉城勝也
大 E1 本多謙一
大 E2 釜谷研造
大 E4 大井浩二
大 E4 堀江幸夫
大 E5 幸井禧夫
大 E6 清水重雄
大 E7 井口 毅
大 E7 伊藤豹一郎
大 E7 芳賀直美
大 E7 箱木真澄
大 E7 東 明宏
大 E7 福岡正彦
大 E7 藤田欣吾
大 E7 森川悦男
大 E8 浅野 弘
大 E8 石井純一
大 E8 石田雅則
大 E8 菊井忠雄
大 E9 網本保榮
大 E9 大崎昭三
大 E9 加嶋廣繁
大 E9 住江 漠
大 E9 中谷昌弘
大 E9 縄田(縄田)洋子
大 E9 菅澤(森)幸子
大 E9 孝橋(吉田)明子
大 E10 片岡利昭
大 E10 木下勝弘
大 E10 高野益行
大 E10 丹野哲男
大 E10 福井紀三
大 E10 細川清秀
大 E10 宗岡 巖
大 E11 石原 了
大 E11 弓庭(大景)喜和人
大 E11 紀野(奥田)道子
大 E11 木戸淑夫
大 E11 栗本博夫
大 E11 柴山幸彦
大 E11 西尾 齊
大 E11 西村孝作
大 E12 梅田一徳
大 E12 大原逸夫
大 E13 岡澤敏貴
大 E13 出口健治
大 E13 村上 光
大 E13 横山憲次
大 E14 江尻成泰
大 E14 佐藤元信
大 E14 田中詔一
大 E14 黒田(真屋)好子
大 E15 伊東昭廣
大 E15 佐々木康治
大 E15 井上(富田)泰子

三原健一先生を偲んで

大阪大学日本語日本文化教育センター 准教授 藤平愛美
大阪大学名誉教授の三原健一先生が 2025 年 12 月 8 日にご逝去されました。
ゼミ生の一人として先生を偲ぶと、専門である生成文法について語られる三原先生のお姿がまず思い浮かびます。授業では、文の構造を一つひとつ丁寧に解きほぐしながら、複雑な事柄を筋道立てて説明されていました。日本語学の魅力や統語論のおもしろさを知ったのも、その授業でした。普段は穏やかな標準語で話されるのに、雑談になるとふっと関西弁がのぞくことがあり、そのようなときに垣間見える先生の素顔にも親しみを覚えました。また、先生は何事にも几帳面な方で、講義資料はすべて学期前に完成しており、初回授業で配布されていました。自分が教員となった今、その周到な準備を長年続けてこられたことの重みを改めて感じています。
心より感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

好田實先生のご逝去に深い悲しみと感謝の念を込めて

別府孝次（Ⅱ E11）

先生は、専門であられた英語学・英語教育のご指導を通じて、私たち学生に言葉の奥深さと、学び続けることの大切さを教えてくださいました。授業では常に厳しさの中に温かさがあり、一人ひとりの理解度に丁寧に寄り添いながら、決して妥協することなく高い目標へと導いてくださいました。

私は卒業後、高等学校・中学校で英語を教える立場となりましたが、教壇に立つたびに、先生の授業でいただいた言葉や、黒板の前に立つ姿を思い出します。生徒の名前をできるだけ早く覚え、一人ひとりの可能性を信じて励まし続けること。ミスを責めるのではなく、その先の成長を一緒に考えること。これらはすべて、先生から教わった教師としての在り方です。もし先生との出会いがなければ、私は英語教師という道を選んでいなかったかもしれません。英語そのものの面白さだけでなく、言語を通して他者を理解し、自分の世界を広げていく喜びを教えてくださいました先生の影響は、今も日々の授業の中に生き続けています。私の教え子たちに受け継がれていく小さな成長の一つひとつが、先生へのささやかな恩返しになればと願ってやみません。

在りし日の先生の穏やかな笑顔と、情熱あふれるお声を心に刻み、これからも英語教育に携わる者として恥じない歩みを続けてまいります。先生、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表

本 部	会 長	連絡先	E-mail or TEL/FAX
	大内 一 (大S28/院S13)	事務局	〒562-8678 箕面市船場東3-5-10 大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟1F TEL & FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支 部	支部長名		
北海道	笹山喜市 (大IP25)		〒003-0029 札幌市白石区平和通9丁目北1番29号 sasayama@sapporo.email.ne.jp
東 北	黒木一吉 (II E10)	高橋啓介 (大PH52)	〒982-0821 仙台市太白区松が丘15-7 cb250Keisuke@yahoo.co.jp
東 京	樽井一仁 (大R23)		〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603 taru2742@yahoo.co.jp
長 野	山西敏博 (院後言社8)		〒386-0034 長野県上田市中之条371-7-202 ezm11541@nifty.ne.jp
名古屋・岐阜	白岩 修 (大D19)		〒465-0066 名古屋市中東区梅森坂西1-801-107 shiraiwa1123@yahoo.co.jp
石 川	楠根重和 (院D7)		〒920-0813 石川県金沢市御所町1-373 forelle2003@yahoo.co.jp
福 井	水嶋俊光 (大F34)		〒916-0087 福井県鯖江市田村町7-8-6 t-mizushima-yv@fukui-ed.jp
京 都	宮川徳三 (大S16)	長尾美知代 (大S33)	〒602-8352 京都市上京区稲葉町459 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
奈 良	佐柄保夫 (大C26)		〒631-0804 奈良市神功1-4-125 sagara07@hera.eonet.ne.jp
大 阪	金村義夫 (II E10)		〒540-0021 大阪市中央区大手通3-3-3 日宝東本町ビル8F101号 ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神 戸		大江昌子 (大B43)	〒650-0004 神戸市中央区中山手通2-4-15-402 株式会社マーレ mare@skyblue.ocn.ne.jp
播 但	釜谷研造 (大E2)		〒675-0038 加古川市加古川町木村140-8 mobile phone: 090-9991-1110
丹 波	梅垣 誠 (大E31)		〒669-3309 丹波市柏原町柏原20-1 umai@tamba.co.jp
香 川	川井田 修 (大DM31)	佐々木雅彦 (大IP38)	〒761-0112 高松市屋島中町298-1 sasaki-ma@mainichi.co.jp
徳 島		小田敏治 (大IN21)	〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34 tosky2276@ao4.gmob.jp
愛 媛	垣生千春 (大IP40)		〒799-2460 愛媛県松山市苞木甲119-8 hazar-bahar.julai-25@ezweb.ne.jp
高 知		周藤健史 (大S30)	〒780-0024 高知市前里335-7 tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡 山	草野 徹 (大DM23)		〒701-1221 岡山市北区芳賀5112-98 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
広 島		後藤 峻 (南欧夜F42)	〒722-0022 広島県尾道市栗原町10035-2 シティハイツセピア301号 taquos.gotou@gmail.com
鳥 取	小原越史 (中北欧夜E30)		〒683-0802 鳥取県米子市東福原5-8-26-202 a2coh@yahoo.co.jp
島 根	勝部由紀夫 (大D33)		〒693-0101 島根県出雲市上島町1363 yukiokatsube@icloud.com
福 岡	吾郷健二 (大S10)	中尾史子 (大IN27)	〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501 nfumi3191@gmail.com
熊 本	かじえいせい (大S21)		〒861-2405 熊本県阿蘇郡西原村宮山出口1547-1 dreamincountry@gmail.com
宮 崎	木崎宣博 (大PB42)		〒880-0879 宮崎市宮崎駅東1-5-1 サーパス宮崎駅東1002号 kisakipc@yahoo.co.jp
沖 縄	金城徹男 (II D5)		〒904-0004 沖縄市中央1-33-1 tetuo_k2001@yahoo.co.jp
北 京	中嶋清治 (大C21)		
		氏家道登 (阪大C4)	北京市 (以下略) ujiie-michito@jfe-eng.co.jp
上 海	渡邊 洋 (大C29)	伏村和展 (大C59)	sh_oufs@yahoo.co.jp
香 港	太田明雄 (大IT26)	小林敏子 (東アジア大C57)	Flat 9B, Chuen Fat Building, 9 Valley Road, Ho Man Tin, Kowioon, Hong Kong 4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一 (大K35)		Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OnelFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	坂口広之 (大IN36)		Bandung, Indonesia (以下略) darwin0708@gmail.com
		高岡容子 (大IN35)	Jakarta, Indonesia (以下略) ytakaoka@cbn.ne.jp
マニラ	テンマタイ都喜代 (大E25)		# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720 tsukiyotenmatay@gmail.com
バンコク	阪本法子 (開発・環境大47)		Ms. Noriko Sakamoto800/940 Ashton Chula- Silom, Rama IV Road, Si Phraya, Bangrak, Bangkok 10500, Thailand osakagaidai@bkk@yahoo.co.jp
ハノイ外語会	若山周平 (大TR49)		M2-2801, Vinhomes Metropolis, 29 LieuGiai, Ngoc Khane, BaDing, Hanoi, Vietnam shu0620@gmail.com
ヤンゴン外語会	遠藤加菜 (阪大B7)		crab.n07@gmail.com
イスタンブール	坂本恭典 (大R40)		c/o Mitsubishi Corporation Istanbul Main Branch yasunori.sakamoto@mitsubishicorp.com
ニューヨーク		石田佳子 (大D29)	230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA hime.yoshikoishida@gmail.com
ロサンゼルス	望月一郎 (大E25)		951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA ichimochizuki@yahoo.co.jp
		西川ノーマン裕子 (大TV36)	4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA hirokonamann@gmail.com
サンパウロ	草薙綾子 (中南米大PB48)		Alameda Santos, 705-cj. 17-Cerq. Cesar Sao Paulo-SP- Brasil-01419-902 wec@wecbrazil.com
ロンドン			
デュッセルドルフ			
パリ	松本隆男 (大F4)		c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delabordere 92200 Neuilly / Seine France
イタリア		田中佳代子 (大IT38)	Montefiascone VT Italy (以下略) kyktnk2022@gmail.com
モスクワ	岩本 茂 (大R18)		〒169-0051東京都新宿区西早稲田 (以下略) iwamoto@jtools.biz

咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表



令和 8 年度 咲耶会役員名簿									
名誉会長	菊池正和		幹事	西村朋也	大 TV22	幹事	並川嘉文	院前日本 7	
会長	大内 一	院 S13		石野伸子	大 D22		男成健一	中南米大 S49	
副会長	井上泰子	大 E15		川村芳範	大 TV24		矢元貴美	院前東南ア 8	
	小林正受	大 E16		中島裕司	大 DM24		菊池信孝	開発大 57	
	樽井一仁	大 R23		長尾美知代	大 S33		福山泰海	大 H59	
	青木伸也	大 TV28		片田 聡	大 DM36		後藤 峻	南欧夜 F42	
	岡本淳子	院後言語 8		須佐多恵	院 R20	大学役員	原真由子		
幹事	前田征信	大 K16		上原順一	院 R22		中本 香	院 S27	
	深川泰博	大 E16		植草美香	大 B40	会計監査	岡本晶子	大 S29	
	白岩 修	大 D19		福田義昭	院後言語 1		野垣和美	大 P33	
	三次尚沼	Ⅱ C5		大江昌子	大 B43	相談役	大水 勇	大 C15	

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子／委員 岡本淳子・並川嘉文・矢元貴美／事務局 天野豊子・犬飼祐子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。

- 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。
 - 会員のデータ管理
 - 総会・同窓会活動各種案内
 - 会報『咲耶』の送付
 - 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
 - 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
 - その他会則に基づく活動
 - 自己情報の提供は任意です。
 - 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。
 - 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。
 - 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

集編
後記

『咲耶』37号をお届けします。

後記

新キャンパスに移転してすでに6年目。地域の中に入り、根を下ろし、「地域に生き世界に伸びる」という理念の下、外国語学部が主催する様々なイベントやシンポジウム、講演会を通じて、地域の文化、学術の拠点として進化して行く母校の姿を誇りに思います。生涯学習の観点からも、知的好奇心を充足させる存在として、大学が地域に還元する多様な学びの機会は何物にも代えがたい資源であると思われます。会報『咲耶』や咲耶会のホームページ、SNS等での広報により、その発展に寄与できればと考えます。

咲耶会が長年関わってきた大きな事業として、平成 10 年から開催されてきた「司馬遼太郎記念学術講演会」があります。時代の変遷により開催の形態は変化してきましたが、その理想は脈々と受け継がれ、本年度で 29 回目を迎えます。第 1 回から第 28 回に至るまで、その講師の多彩さ、内容の豊富さに目を見張ります。折しも今年は司馬遼太郎没後 30 年の年。ささやかながら特集を組み、ご縁のあった方々に、司馬さんへの想い、講演会にまつわる思い出話など語っていただきました。財政事情厳しい中にも、文化的活動を誇れる同窓会でありたく、皆様の温かいご支援、何とぞよろしくお願い申し上げます。(編集委員会)

